芳賀東部団地遺跡Ⅲ

芳賀東部住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005. 3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

芳賀東部団地遺跡Ⅲ

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

はじめに

前橋市の北にそびえる赤城山は、往古から人々とかかわりが深く、親しまれ愛される逍遙の山であります。とりわけ、赤城山南麓は、その悠々と裾野を広げる台地を中心として、岩宿遺跡に代表されるように遠い旧石器時代から現在まで人々のさまざまな生活が繰り広げられました。

前橋市・大胡町・宮城村・粕川村の１市１町２村は昨年12月５日に合併を行い、赤城山南麓の広範囲を占めることとなりました。

かつて、この地の養蚕を支えた風物詩といえる桑畑は消えゆく運命を辿っております。近年、赤城山南麓一帯は産業構造の変化と相まって大規模な圃場整備事業や工業団地、住宅団地造成、道路建設が広範囲に実施されたため数多くの発掘調査が展開されました。

今回の芳賀西部団地遺跡も赤城山南麓に立地するものであり、調査によって律令時代や続く平安時代の竪穴住居跡12軒を検出することができました。過去の芳賀団地の調査成果を補完することが出来ました。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、残暑厳しい中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成１７年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　**中　原　惠　治**

例　言

1　本報告書は、芳賀東部団地（拡張）造成に伴う芳賀東部団地発掘調査報告書である。

2　調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

3　発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市鳥取町770番1ほか
発掘調査期間	平成16年8月30日～平成16年10月8日
整理・報告書作成期間	平成16年10月12日～平成17年3月24日
発掘・整理担当者	大﨑和久・綿貫綾子・遠藤たか美（発掘調査係員）

4　本書の原稿執筆・編集は、大﨑・綿貫・遠藤が行った。

5　発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

秋本恵利子・阿部シゲ子・一倉はつ子・井上和久・神澤とし江・北爪啓子・佐藤三恵子・中山昭・橋本茂原田要三・平林茂利・森下陽介

6　発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

1　挿図中に使用した北は、座標北である。

2　挿図に建設省国土地理院発行の1/200,000地形図（宇都宮、長野）、1/25,000地形図（前橋、大胡、渋川、鼻毛石）を使用した。

3　遺跡の略称は、芳賀東部団地遺跡　　遺跡コード（16 C 13）である。

4　本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

H…古墳・奈良・平安時代の住居址　　B…掘立柱建物址

W…溝　　O…落ち込み　　D…土坑（古墳時代以降）

P…柱穴・貯蔵穴（H住居内P５を貯蔵穴とした）

5　遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。

遺構　住居址・掘立柱建物址…1/60　土坑…1/60　溝…1/60　炉・竈断面図…1/30

遺物　土器…1/3・1/4　石器・石製品…2/3・1/3

6　計測値については、（　）は現存値、［　］は復元値を表す。

7　スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構平面図　竈焼土…濃点　その他の焼土…薄い濃点

遺構断面図　構築面…斜線

8　火山降下物の略称と年代は次のとおりである。

As-B（浅間B軽石：供給火山・浅間山、1108年）

Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山・榛名山、６世紀中葉）

Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山・榛名山、６世紀初頭）

As-C（浅間C軽石：供給火山・浅間山、４世紀前半～中葉）

目　次

はじめに
例　言
凡　例
目　次
挿図目次
表 目 次
写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　遺跡の位置と環境
　1 遺跡の立地 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　2 歴史的環境 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅲ　調査の経過
　1 調査方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
　2 調査経過 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

Ⅳ　基本層序・・ 3

Ⅴ　遺構と遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

Ⅵ　成果と問題点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

写真図版

報告書抄録

図版

PL. 1　H-1～H-5号住居址
2　H-5～H-10号住居址
3　H-11～H-12号住居址、B-1号掘立柱建物址
4　H-1～H-6号住居址出土の遺物
5　H-5～H-11号住居址出土の遺物、鉄器・鉄製品
6　石器・石製品

挿図

Fig. 1　芳賀東部団地遺跡位置図
2　基本土層
3　芳賀東部団地周辺遺跡図
4　遺構全体図
5　H-1・2号住居祉
6　H-3・4号住居址、O-1号落ち込み
7　H-5・11号住居址
8　H-6～8号住居址
9　H-9・10・12号住居址
10　H-1～8号住居址出土の土器、D-2号土坑出土の土器
11　H-9・11号住居址出土の土器、鉄器・鉄製品、石器石製品・グリッド出土の土器

表

Tab. 1　芳賀東部団地遺跡周辺遺跡概要一覧表
2　竪穴住居址一覧表
3　鉄器・鉄製品観察表
4　土坑・柱穴計測表
5　遺物観察表

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査は、芳賀東部団地拡張造成事業実施に伴い行われた。

平成16年8月5日、前橋工業団地造成組合（管理者　高木政夫）より、芳賀東部業団地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が、前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　中原惠治）に対し調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。その後、調査団と調査依頼者（前橋工業団地造成組合）とで協議・調整を図り、8月5日に両者の間で芳賀東部団地遺跡に関する埋蔵文化財発掘調査委託契約が締結された。現地での発掘調査は8月30日から開始した。

なお、遺跡名称「芳賀東部団地遺跡」（遺跡コード:16 C 13）の「芳賀」は旧地籍の小字名を採用した。また、今回の調査が第3次調査にあたる。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、地質・地形から北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。芳賀東部団地遺跡は前橋市役所から北東の方向約5㎞の赤城火山斜面にある鳥取町地内の芳賀東部団地造成予定地である。鳥取町は、昭和29年に前橋市に吸収合併された。それまでは、昭和22年に周囲の6ヵ村と赤城山入会地と合併し、芳賀村となり勢多郡芳賀村字鳥取であった。旧芳賀村の地域は現在も「芳賀地区」と呼称されている。昭和45年から住宅・工業団地の開発が進められ、住宅や工場が多数建ち並んでいる。同地区北端から扇状地状に火山岩層が広がっているため、山腹的要素が強く、緑が多く残っている。そして、湧水を源とする川水によっての浸触が目立ち、ここを谷頭とする開析谷が南に向かって伸びている。この開析谷中の低地には水田が、谷と谷の間の丘陸性の台地上には集落、畑が開かれている。南端の斜面の末端部は比高10ｍ前後の直線的な段丘崖となって旧利根川河川敷に接している。

2　歴史的環境

芳賀東部団地遺跡が位置する赤城山南斜面の台地には、旧石器時代後期から中近世に至る数多くの遺跡が存在し、埋蔵文化財の宝庫として知られている。本遺跡が所在する前橋市の北部「芳賀地区」は、芳賀地区団地造成計画に伴う大規模な発掘調査の他、数多くの発掘調査によってその歴史が明らかにされてきている。

本遺跡も位置する芳賀東部団地遺跡（調査面積約33ha）は、昭和51～55年の調査において縄文時代から古墳時代、奈良・平安時代まで続く集落跡であることがわかっている。縄文前期の竪穴住居址60軒、中期末葉と後期前半の敷石住居址6軒が検出された。また、古墳4基、鍛冶関連遺構5基が検出された。そして、奈良・平安時代の竪穴住居址約500軒、掘立柱建物址206軒が検出された。

本遺跡の西に位置する芳賀西部団地遺跡（調査面積約2.5ha）は、縄文時代前期の竪穴住居址、埴輪棺等の他、古墳綜覧記載漏れの古墳32基が集中して検出され、5世紀後半から6世紀初頭にかけての初期群集墳であることが分かった。また、小神明遺跡群Ⅱの西田遺跡からは円墳4基、帆立貝式古墳1基が検出された。昭和10年、県下一斉に行われた古墳調査において芳賀地区には64基の古墳があるとされ、赤城南麓では旧荒砥村、粕川村、旧桂萱村についで古墳の多いところとされてきた。しかし、古墳綜覧記載漏れの古墳を併せると、芳賀地区には

実に 100 基もの古墳が集中して存在したことになる。

芳賀北部団地遺跡（調査面積約 6.1ha）は縄文時代前期、後期の竪穴住居址、中期の敷石住居址が検出された。また、奈良・平安時代では竪穴住居址 237 軒が検出され、中世では勝山城址の一部が検出された。

鳥取福蔵寺遺跡では、縄文前期の住居址が 2 軒、奈良・平安時代の住居址が 39 軒・精錬鍛冶炉遺構が 1 基、中世の竪穴状遺構 1 基などが検出された。

鳥取福蔵寺遺跡では、特筆すべきこととして約 13,000 年前に堆積した浅間黄色軽石層直下の関東ローム層中より旧石器が検出された。細石刃文化石器群と認められるだけでも 350 点検出された。器種も細石核、細石刃、スキー状削片、彫刻刀型石器、削器、掻器、礫器など多岐に及んだ。縄文時代前・中・後期の竪穴住居址 6 軒、古墳時代の竪穴住居址 12 軒、奈良・平安時代の竪穴住居址 29 軒・掘立柱建物址 9 基・鍛冶工房跡 1 基が検出された。

檜峯遺跡からは、奈良・平安時代の竪穴住居址 65 軒とともに、奈良三彩小壺（前橋指定重要文化財）が検出された。

このように芳賀地区の主な遺跡を見てくると、旧石器時代の終わりから縄文、古墳、奈良・平安時代、中近世と、古くから絶えることなく人々が生活をしてきたことが窺える。

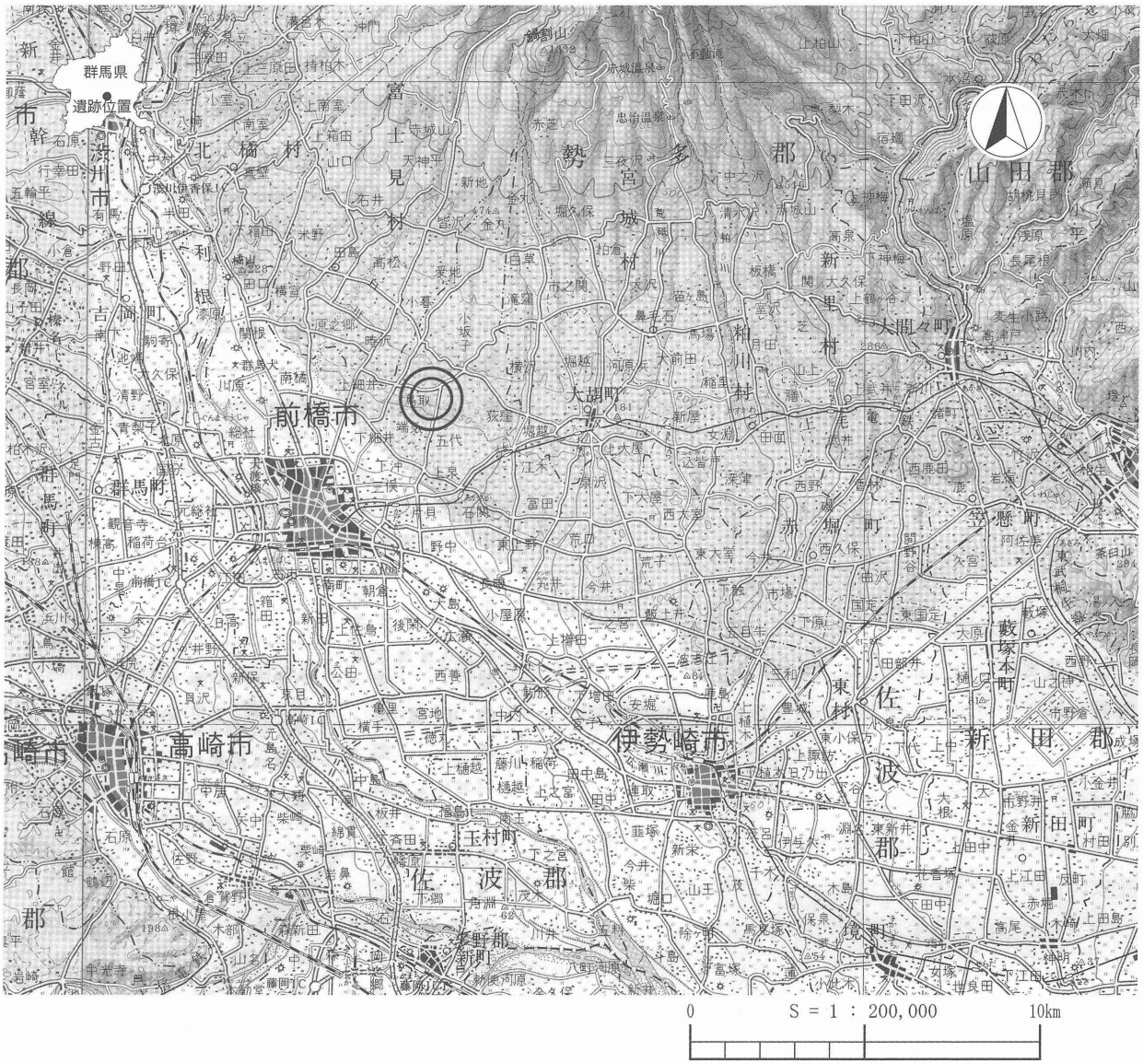


Fig.1　芳賀東部団地遺跡位置図

Ⅲ　調査の経過

1　調査方針

委託調査箇所は、芳賀東部団地拡張造成が計画されている地域(3039㎡)のうち、幅8mの計画道路部分で(418㎡)である。グリッドについては、4mピッチで西から東へA.B.C…、北から南へ1.2.3.…、YB、と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。本遺跡のA・0の公共座標は次のとおりである。

46768.000(X)　－64600.000(Y)　[旧日本測地系（TKY）IX系]
47122.761(X)　－64891.868(Y)　[世界測地系（JGD2000）IX系]

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板･簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

発掘調査は、8月30日から開始した。重機(バックフォー0.7t)1台と10tクローラダンプ1台を使い、調査区の表土掘削を行った。表土掘削に2日かかり、それと並行して鋤簾による遺構確認を行った。表土下約40cmからローム面が検出された。9月1日に杭打ちを行い、遺構の掘下・精査に入った。遺構精査の結果、土師の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡1軒、土坑12基、柱穴49基、落ち込み状遺構1基、溝跡1条が検出された。9月22日に高所作業車による全体写真撮影を行い、その後10月8日に埋め戻しを行い、調査を終了した。

今年の夏は台風の影響等で雨の日も多く、また猛暑で作業の進捗に多少影響が見られた。10月12日から文化財保護課に戻り、出土遺物・図面・写真等の整理作業にあたった。3月18日、遺物・図面・写真等の整理作業をすべて終了した。

Ⅳ　基本層序

本跡地内の地層の堆積は、下のとおりである。

1	褐色土層	現耕作土。締まりあり。粘性なし。
2a	黒褐色土層	As-C軽石を多量に含む。締まりあり。粘性なし。
2b	黒褐色土層	As-C軽石を含む。締まりあり。粘性なし。
3	にぶい黄褐色土層	ローム漸移層。As-C軽石を若干含む。締まりなし。粘性あり。厚さ25㎝前後。
4	明黄褐色土層	ローム層。締まりあり。粘性あり。

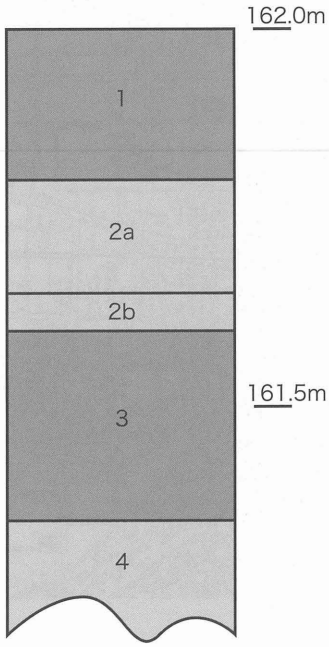


Fig.2　基本土層

Fig.3　芳賀東部団地周辺遺跡図

Tab.1　芳賀東部団地遺跡周辺遺跡概要一覧表

番号	遺　跡　名	調査年度	時　代　：　遺　構　の　種　類　及　び　数
1	芳賀東部団地遺跡	平成 16	本遺跡
2	五代中原Ⅲ遺跡	平成 15	古　　墳　：竪穴住居跡 45、土坑 55、ピット 57
3	五代山街道Ⅰ遺跡	平成 15	縄　　文　：竪穴住居跡 9、土坑 8 古　　墳　：竪穴住居跡 1 奈良・平安：竪穴住居跡 2、掘立柱建物跡 1
4	五代山街道Ⅱ遺跡	平成 15	縄　　文　：土坑 11
5	芳賀北部団地遺跡	昭和48,49	縄　　文　：竪穴住居跡 34（うち敷石住居 4）、配石遺構 17 奈良・平安：竪穴住居跡 237、掘立柱建物跡 8、製鉄遺構 3、溝 28、井戸 5、ピット 20
6	芳賀西部団地遺跡	昭和 50	縄　　文　：竪穴住居跡 7、ピット 6、配石遺構 3 古　　墳　：古墳 32、埴輪棺 1 他
7	芳賀東部団地遺跡	昭和 51 ～ 55	縄　　文　：竪穴住居跡 60（うち敷石住居 6）、ピット 140、配石遺構 4 古　　墳　：竪穴住居跡 75、古墳 4 奈良・平安：竪穴住居跡 411、掘立柱建物跡約 206、鍛冶・精錬址 5、その他 635
8	檜　峯　遺　跡	昭和 56	古　　墳　：竪穴住居跡 11 奈良・平安：竪穴住居跡 65
9	小神明遺跡群Ⅰ	昭和 57	縄　　文　：竪穴住居跡 7、ピット 4、その他 1 奈良・平安：竪穴住居跡 3
10	端気遺跡群Ⅰ・Ⅱ	昭和 57 ～ 58	縄　　文　：竪穴住居跡 2、ピット 1 弥　　生　：方形周溝墓 2、ピット 1、溝 1 古　　墳　：竪穴住居跡 16
11	小神明遺跡群Ⅱ西田遺跡	昭和 58	縄　　文　：竪穴住居跡 3 古　　墳　：竪穴住居跡 4、円墳 4、帆立貝式古墳 1
12	倉　本　遺　跡	昭和 58	弥　　生　：竪穴住居跡 2
13	小神明遺跡群Ⅱ大明神遺跡	昭和 58	古　　墳　：竪穴住居跡 2
14	小神明遺跡群Ⅱ九料遺跡	昭和 58 ～ 60	縄　　文　：敷石住居跡 3 古　　墳　：竪穴住居跡 40、掘立柱建物跡 1 奈良・平安：竪穴住居跡 2
15	芳賀北曲輪遺跡	平成 2	縄　　文　：竪穴住居跡 23（うち敷石住居 4）、配石遺構 1 古　　墳　：古墳 6
16	芳賀北原遺跡	平成 3	古　　墳　：竪穴住居跡 3 奈良・平安：竪穴住居跡 6
17	五代檜峯遺跡	平成 9	古　　墳　：竪穴住居 2
18	鳥取東原遺跡	平成 9	古　　墳　：竪穴住居跡 1 近　　世　：埋葬施設 1
19	鳥取福蔵寺遺跡	平成 9	縄　　文　：竪穴住居跡 2、落ち込み 2 古墳～平安：竪穴住居跡 41（製鉄遺構 1）、土坑 83、掘立柱建物跡 1、井戸跡 2
20	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡	平成 10	旧　石　器：細石刃文化石器群 縄　　文　：竪穴住居跡 6 古　　墳　：竪穴住居跡 12 奈良・平安：竪穴住居跡 29、掘立柱遺構 9、　鍛冶工房跡 1
21	五代江戸屋敷遺跡	平成 12	縄　　文　：土坑 1 古　　墳　：竪穴住居跡 44、方形周溝墓 2、周溝状遺構 1 奈良・平安：竪穴住居跡 12、掘立柱建物跡 1、ピット 87、井戸跡 1 中　　世　：地下式土坑 2、溝 1
22	五代竹花遺跡	平成 12	縄　　文　：竪穴住居跡 2 古　　墳　：竪穴住居跡 7、土坑 1 奈良・平安：竪穴住居跡 9、土坑 3、ピット 254 近世・現代：溝 2

◎その他の周辺の遺跡

23 五代木福Ⅰ遺跡	24 五代木福Ⅱ遺跡	25 五代深堀Ⅰ遺跡	26 五代伊勢宮Ⅰ遺跡	27 五代伊勢宮Ⅱ遺跡
28 五代伊勢宮Ⅲ遺跡	29 五代深堀Ⅱ遺跡	30 五代中原Ⅰ遺跡	31 五代伊勢宮Ⅳ遺跡	32 荻窪鰯塚遺跡
33 荻窪東爪遺跡	34 荻窪倉兼遺跡	35 五代伊勢宮Ⅴ遺跡	36 五代伊勢宮Ⅵ遺跡	37 五代中原Ⅱ遺跡
38 荻窪倉兼Ⅱ遺跡	39 新田塚古墳	40 檜峯古墳	41 大日塚古墳	42 桂正田稲塚古墳
43 東公田古墳	44 オブ塚古墳	45 オブ塚西古墳		

V　遺構と遺物

1.　竪穴住居址

H-1 号住居址 (Fig.5、PL.1)

位置　A－2･3 グリッド　**主軸方向**　N－93°－E　**形状等**　方形状と推定される。東西(2.11)m、南北(0.98)m、壁現高 36 ㎝を測る。　**面積**（6.75）㎡　**床面**　平坦で顕著な床面で硬質。　**貯蔵穴**　南東隅に検出 P5・不整楕円形を呈し、長径 68 ㎝、短径 50 ㎝、深さ 29 ㎝を測る。　**竈**　東壁南寄りに付設され、主軸方向　N—90°—Eであり、全長 265 ㎝、最大幅 140 ㎝、焚口幅 68 ㎝を測る。構築材として大形自然礫、加工した扁平礫を補強材として使用。　**出土遺物**　総数 527 点の遺物が出土。この内図示したものは、床面から灰釉陶器高台皿 (2)、竈から土師器甕（3 ～ 5)、その他、鉄製の石鏃の柄や覆土に須恵器高台皿（1）等である。また、住居址の周辺から灰釉陶器の高台付皿（25）も出土。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

H-2 号住居址 (Fig.5、PL.1)

位置　F・G－2･3 グリッド　**主軸方向**　N－106°－E　**形状等**　方形状と推定される。東西 (2.62) m、南北 4.80 m、壁現高 57.5 ㎝を測る。　**面積**（14.34）㎡　**床面**　ローム主体の茶褐色土。全体的に平坦、南西部に堅緻面を確認。柱穴は未検出。　**周溝**　北壁、南西壁の一部に検出。　**竈**　調査区外のため検出されず。　**出土遺物**　総数 321 点の遺物が出土。この内図示したものは、床面から土師器坏（6）の 1 点のみである。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から 8 世紀後半と考えられる。

H-3 号住居址 (Fig.6、PL.1)

位置　C・D－2･3 グリッド　**主軸方向**　N－100°－E　**形状等**　方形状と推定される。東西(1.68)m、南北 4.41 m、壁現高 43 ㎝を測る。　**面積**（11.83）㎡　**床面**　ほぼ全体にわたって堅緻面を確認。竈前には、炭化物、焼土、粘土ブロックが分布。　**貯蔵穴**　東南隅に検出 P5・楕円形を呈し、長径 87 ㎝、短径 71 ㎝、壁現高 25.5 ㎝を測る。　**周溝**　北東壁に検出。　**竈**　東壁中央寄りに付設され、主軸方向　N—100°—E であり、全長 118 ㎝、最大幅 179 ㎝、焚口幅 92 ㎝を測る。構築材として主に白色粘土を用いている。　**出土遺物**　総数 556 点の遺物が出土。この内、貯蔵穴から出土した須恵器坏（7）を図示した。その他に、床面から刀子が出土。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

H-4 号住居址 (Fig.6、PL.1)

位置　H・I－1･2 グリッド　**主軸方向**　N－95°－E　**形状等**　方形状と推定される。東西 (2.08) m、南北〔3.34〕m、壁現高 26.5 ㎝を測る。　**面積**（10.29）㎡　**床面**　ロームを含む茶褐色土主体で、全体的に平坦である。柱穴は未検出。　**竈**　検出されず。　**重複関係**　O -1 と重複し、新旧関係はO -1 →H -4 である。　**出土遺物**　総数 81 点と出土量が少なく、床面から内側に朱を施す須恵器高台椀（8）の底部と、鉄製の釘等が検出されたに止まり、これを図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から 10 世紀初頭と考えられる。

H-5 号住居址 (Fig.7、PL.1,2)

位置　H・I－2･3グリッド　**主軸方向**　N－96°－E　**形状等**　方形状。東西 3.09 m、南北 3.77 m、壁現高 34.5 ㎝を測る。　**面積**　11.83 ㎡　**床面**　ほぼ平坦な床で、竈周辺に堅緻面が存在し炭化物、焼土が分布。**柱穴**　北西隅にＰ１・長径 54 ㎝、短径 48 ㎝、壁現高 10 ㎝である。　**貯蔵穴**　南東隅にＰ５・楕円形を呈し、長径 49 ㎝、短径 36 ㎝、深さ 11 ㎝が検出された。　**竈**　東壁中央寄りに 2 基検出。**新竈**　主軸方向　N－80°

－Ｅであり、全長 193 ㎝、最大幅 131 ㎝、焚口幅 86 ㎝を測る。構築材として、袖石に安山岩、補強材に凝灰岩を使用。支脚痕が検出。　**旧竈**　本体南に堀方のみ残存。　**主軸方向**　Ｎ－72°－Ｅであり、全長 157 ㎝、最大幅 (97) ㎝、焚口幅 (66) ㎝を測る。　**出土遺物**　総数 627 点の遺物が出土。このうち図示したものは 6 点である。土師器坏（9 ～ 10)、須恵器坏（11)、須恵器高台椀（12)、土師器甕（13)、土師器台付甕（14）である。**備考**　時期は埋土や出土遺物から 9 世紀後半と考えられる。

H-6 号住居址 (Fig.8、PL.2)

位置　Ｊ－1 グリッド　調査区外のため竈のみ検出　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ、全長（221）㎝、最大幅（136）㎝、焚口幅（76）㎝を測る。構築材として安山岩質の礫を基本に袖や支脚として使用。また、竈内全体に扁平礫や大形自然礫が散在。石が組まれていたと推定される。　**出土遺物**　総数 136 点の遺物が出土。このうち、竈内から土師器甕（15）を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から 9 世紀中頃と考えられる。

H-7 号住居址 (Fig.8、PL.2)

位置　Ｉ・Ｊ－1･2 グリッド　**主軸方向**　Ｎ－77°－Ｅ　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.28）m、南北 4.56 m、壁現高 51 ㎝を測る。　**面積**（8.79）㎡　**床面**　全体的に平坦で、竈周りに堅緻面が存在。　**貯蔵穴**　東南隅に P5･円形を呈し、長径 7.2 ㎝、短径 6.3 ㎝、深さ 20 ㎝が検出された。　**周溝**　北東壁、南壁に沿って検出。**竈**　東壁中央に付設され、主軸方向　Ｎ－85°－Ｅであり、全長 223 ㎝、最大幅 173 ㎝、焚口幅 112 ㎝を測る。構築材として、粘土を主体として用いている。**重複関係**　Ｈ -6・8 と重複し、新旧関係はＨ -8 →本遺構→Ｈ -6 の順である。**出土遺物**　総数 596 点が出土。この内須恵器坏（16）を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から 9 世紀中頃と考えられる。

H-8 号住居址 (Fig.8、PL.2)

位置　Ｊ・K－1･2 グリッド　**主軸方向**　Ｎ－88°－Ｅ　**形状等**　方形状。東西 3.67 m、南北 (3.08) m、壁現高 33.5 ㎝を測る。　**面積**〔11.06〕㎡　**床面**　全体的に顕著な床面で、竈を中心に堅緻面が広がる。　**柱穴**　北西隅に P1・円形を呈し、長径 44 ㎝、短径 42 ㎝、深さ 7 ㎝、南西隅に P2・円形を呈し、長径 22 ㎝、短径 21 ㎝、深さ 11 ㎝、P3・円形を呈し、長径 22 ㎝、短径 20 ㎝、深さ 11 ㎝の 2 基が検出された。P2・3 は並列しているため、入口の梯子の柱穴と推定される。　**貯蔵穴**　東南隅に P5・楕円形を呈し、長径 55 ㎝、短径 43 ㎝、深さ 12 ㎝が検出された。　**周溝**　北東壁、南壁、西壁の一部に存在。　**竈**　東壁南に付設され、主軸方向　Ｎ－89°－Ｅであり、全長 238 ㎝、最大幅 173 ㎝、焚口幅 112 ㎝を測る。構築材として、粘土を主体として用いている。支脚痕が検出。　**重複関係**　H-7 と D-2 と重複し、新旧関係は H-7 →本遺構→Ｄ -2 の順である。　**出土遺物**　総数 255 点の遺物が出土。この内図示したものは、床面から土師器坏（17)、須恵器坏（18）である。その他床面から刀子が出土している。　**備考**　時期は埋土や遺物から 8 世紀中頃以降と考えられる。

H-9 号住居址 (Fig.9、PL.2)

位置　K・L－1･2 グリッド　**主軸方向**　Ｎ－92°－Ｅ　**形状等**　長方形。東西 4.28 m、南北 3.20 m、壁現高 39.5 ㎝を測る。**面積**　13.26 ㎡　**床面**　全体的に平坦な貼床面。竈周辺に粘土ブロック分布。　**柱穴**　南西隅に P1・楕円形を呈し、長径 46 ㎝、短径 34 ㎝、深さ 19 ㎝を検出。南壁中央付近にＰ 2・長径 22 ㎝、短径 19 ㎝、深さ 7.5 ㎝、Ｐ 3・長径 22 ㎝、短径 18 ㎝、深さ 7 ㎝を測り、P2 とＰ 3 は 2 基並列していることから入口の梯子の柱穴と考えられる。　**貯蔵穴**　南東隅に P5・円形を呈し、長径 53 ㎝、短径 52 ㎝、深さ 13.5 ㎝を測る。　**周溝**　東南壁から南西壁に存在。　**竈**　東壁南寄りに付設され、主軸方向はＮ－88°－Ｅであり、全長 180 ㎝、最大幅 156 ㎝、

焚口幅 62 ㎝を測る。構築材として、白色粘土を主体として用いている。竈内面に補強材として加工した安山岩を使用。 **重複関係** H-10 と重複し、新旧関係は H-10 →本遺構の順である。 **出土遺物** 799 点に及びこの内、土師器坏（20）、須恵器坏（21）、土師器甕（22）を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 8 世紀後半から 9 世紀初頭と考えられる。

H-10 号住居址 (Fig.9、PL.2)

位置 K・L－1 グリッド **主軸方向** N－90°－E **形状等** 方形状と推定される。東西 3.30 m、南北 3.58 m、壁現高 55 ㎝を測る。 **面積**〔11.26〕㎡ **床面** 全体的に平坦で顕著な床面。柱穴、竈は削平され不明である。 **重複関係** H-9 と重複し、新旧関係は本遺構→ H-9 の順である。 **出土遺物** 総数 49 点と少なかった。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 8 世紀後半と考えられる。

H-11 号住居址 (Fig.7、PL.3)

位置 K・L－0・1 グリッド **主軸方向** N－98°－E **形状等** 方形状と推定される。東西（1.58）m、南北 (4.0) m、壁現高 53 ㎝を測る。 **面積**(6.67)㎡ **床面** 全体的に平坦で硬質である。竈前では白色粘土ブロック、焼土、炭化物が多く分布。 **周溝** 南北壁に存在。 **竈** 東壁南寄りに付設され、主軸方向 N－90°－E であり、全長 221 ㎝、最大幅 156 ㎝、焚口幅 62 ㎝を測る。構築材として白色粘土を主として用いている。 **出土遺物** 327 点の遺物が出土。この内、床面から須恵器坏（23）、土師器甕（24）の 2 点を図示した。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 8 世紀前半から中頃と考えられる。

H-12 号住居址 (Fig.9、PL.3)

位置 N・O－2 グリッド **主軸方向** N－90°－E **形状等** 方形状と推定される。東西(3.54)m、南北(1.04)m、壁現高 71 ㎝を測る。 **面積**（2.65）㎡ **床面** 全体的に平坦で顕著な床面。 **竈** 調査区外のため検出されず。 **出土遺物** 総数 206 点である。 **備考** 時期は埋土や出土遺物から 8 世紀後半から 9 世紀前半と考えられる。

2. 掘立柱建物址

B－1 号掘立柱建物址

位置 D・F－2・3 グリッド **主軸方向** N－8°－W **形状等** 方形状。東西 2 間：2.12 m×南北 2 間：2.10 m の方形状で、間寸法は東西 1.23 ＋ 0.89 m、南北 1.50 ＋ 0.60 mである。 **面積** 16.59 ㎡ **柱穴** 平面は円形・楕円形を呈し、円筒形をしている。形は 26 ～ 49 ㎝、深さ 24 ～ 57 ㎝を測る。 **出土遺物** 流れ込みと思われる土師器が 3 点出土。 **備考** 時期は埋土や主軸方向から 8 世紀後半と考えられる。

3. 溝

W－1 号溝

位置 L～P－1・2 グリッド **主軸方向** 東壁から出て、N－95°－E で西に 2.91 m進み、N－2°－E の方向で L 字状に折れ、16.67 m南に進む。**形状等** 断面は、U 字状の形を呈する。幅 26 ～ 52 ㎝、深さ 12 ㎝程度で、長さ（19.58）mを検出。**重複関係** H-9 と重複し、新旧関係は H-9 →本遺構である。 **出土遺物** 本遺構に関する遺物は出土しなかった。**備考** 時期は埋土や重複関係から 8 世紀から 9 世紀代と考えられる。

4. 土坑・柱穴

土坑・柱穴については、Tab.3 土坑・柱穴計測表（Tab.4）を参照のこと。

5. 落ち込み

O－1 落ち込み（Fig.6、PL.1）

位置 H-1･2 **形状等** 円形状と推定される。**重複関係** H-4･5 と重複し、新旧関係は H-4 → O-1 → H-5 である。

出土遺物 総数 64 点の遺物が出土。**備考** 時期は埋土や重複関係から 10 世紀以降と考えられる。

6．グリッド出土遺物

総数 60 点が検出された。その内、灰釉陶器皿（25）を図示した。

Tab.2 竪穴住居址一覧表

遺構名	位置	規模（m）	面積（㎡）	壁現高（cm）	主軸方向	竈		周溝	出土遺物		
		東西×南北				位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H-1	A－2・3	(2.11) × (0.98)	(6.75)	36	N－ 93°－E	東壁南寄り	粘土・石	×	甕		石鏃
H-2	F・G－2・3	(2.62) × 4.80	(14.34)	57	N－106°－E	－	－	○	坏		
H-3	C・D－2・3	(1.68) × 4.41	(11.83)	43	N－100°－E	東壁中央寄り	粘土	○		坏	刀子
H-4	H・I－1・2	(2.08) × [3.34]	(10.29)	26	N－ 95°－E	－	－	×		高台椀	釘
H-5	H・I－2・3	3.09 × 3.77	11.83	34	N－ 96°－E	東壁中央寄り	安山岩・凝灰岩	×	坏・甕	坏・高台椀	
H-6	J－1	－	－	－	N－ 88°－E	－	安山岩	×	甕		
H-7	I・J－1・2	(1.28) × 4.56	(8.79)	51	N－ 77°－E	東壁中央	粘土	○		坏	
H-8	J・K－1・2	3.67 × 3.08	[11.06]	33	N－ 88°－E	東壁南	粘土	○	坏	坏・蓋	刀子
H-9	K・L－1・2	4.28 × 3.20	13.26	39	N－ 92°－E	東壁南寄り	粘土・安山岩	○	坏・甕	坏	
H-10	K・L－1	3.30 × 3.58	[11.26]	55	N－ 90°－E	－	－	×			
H-11	K・L－0・1	(1.58) × (4.00)	(6.67)	53	N－ 98°－E	東壁南寄り	粘土	○	甕	坏	
H-12	N・O－2	(3.54) × (1.04)	(2.65)	71	N－ 90°－E	－	－	×			

Tab.3 鉄器・鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器種		最大長	最大幅	最大厚	重さ	残存	備考
1	H-1・床直	石鏃の柄		(6.7)	(0.6)	(0.5)	5.6	破片	
2	H-3・床直	刀子	刀部	(9.7)	(1.1)	(0.3)	11.6	3/4	
			柄部	(2.9)	(0.6)	(0.3)	1.9		
3	H-4・床直	釘		(5.0)	(0.9)	(1.1)	7.0	破片	
4	H-8・床直	刀子		14.7	1.5	0.75	24.4	完形	

（注）

①層位：「床直」は床面より 10 ㎝未満の層位からの検出、「埋土」は床面より 10 ㎝以上の層位からの検出を表す。

②最大長・最大幅・最大厚の単位は㎝であり、重さの単位は g である。現存値を（ ）で示した。

Tab.4　土坑・柱穴計測表

遺構名	位　置	長　軸 (cm)	短　軸 (cm)	深　さ (cm)	形　状	遺構名	位　置	長　軸 (cm)	短　軸 (cm)	深　さ (cm)	形　状
D -1	C, 3・4	76	56	12	楕円形	P -20	I, 2	66	58	19	円形
D -2	J・K, 2	(17.5)	(6.7)	15.5	楕円形	P -21	J, 2	36	30	21	円形
D -3	D, 3	80	76	57.5	円形	P -22	L・M, 1	96	84	46.5	円形
D -4	E, 2	110	90	28	楕円形	P -23	M, 1	84	58	70	楕円形
D -5	E, 2	92	90	37.5	円形	P -24	N, 1	60	56	25.5	円形
D -6	F, 2・3	118	68	45	楕円形	P -25	N, 0	76	66	18	楕円形
D -7	F, 2	(114)	(60)	24	楕円形	P -26	O, 0	(66)	(30)	14	円形
D -8	F・G, 2	170	84	40	楕円形	P -27	O, 1	44	36	21	円形
D -9	G, 2	110	108	20	円形	P -28	O・P, 1	38	22	7.5	楕円形
D -10	I, 2・3	104	102	15	円形	P -29	O・P, 1	46	42	22	楕円形
D -11	Q, 1	(66)	(58)	35	円形	P -30	P, 1	62	58	21	円形
D -12	Q, 1	(76)	(32)	23	楕円形	P -31	P, 1	56	50	24	円形
P -1	D, 2	50	38	8	円形	P -32	P, 0	26	24	15.5	円形
P -2	D, 2	50	28	16	楕円形	P -33	P, 0・1	42	40	21	円形
P -3	D, 2	51	48	11.5	円形	P -34	P, 1	48	41	31.5	楕円形
P -4	D, 2	42	32	15	楕円形	P -35	P・Q, 1	(56)	(32)	28.5	円形
P -5	E, 2・3	68	36	47	楕円形	P -36	P・Q, 1	54	52	26	円形
P -6	D・E, 2	60	60	7.5	円形	P -37	Q, 1	58	48	28	円形
P -7	E, 2・3	68	50	42	楕円形	P -38	Q, 0	36	31	7	円形
P -8	E, 2	52	48	29	円形	P -39	Q, 1	70	50	22	楕円形
P -9	E, 2	58	54	48	円形	P -40	B, 4	(62)	(58)	33	円形
P -10	E・F, 2	62	58	21.5	円形	P -41	B, 3	30	28	24.5	円形
P -11	F, 3	54	40	41.5	楕円形	P -42	B, 3	30	26	16	円形
P -12	E, 3	58	48	24.5	楕円形	P -43	P, 1	(60)	(31)	33	円形
P -13	F, 2	90	52	21	楕円形	P -44	P, 1	(38)	(36)	11	円形
P -14	F, 2	88	58	35.5	楕円形	P -45	P, 0	(40)	(20)	23	円形
P -15	F・G, 2	56	56	16	円形	P -46	O・P, 0	74	68	24.5	円形
P -16	G, 2・3	(100)	(58)	28.5	円形	P -47	L, 2	78	64	18	円形
P -17	H, 1	(40)	(32)	25	円形	P -48	L, 2	60	56	13	円形
P -18	I, 2・3	68	44	8	楕円形	P -49	E, 3	54	50	27	円形
P -19	I, 1	38	38	33	円形						

Tab.5　遺物観察表

番号	遺構番号 / 層位	器種	①口径 ②器高	①胎土②焼成 ③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H-1 － 1 埋土	高台皿 須恵器	① 13.4 ② 3.0	①粗粒②良好 ③灰黄褐色④ 1/3	轆轤整形。体部：外傾。口縁：わずかに外反、垂平に開く。器肉肥厚、轆轤撫で。底部：内面撫で、外面回転糸切り未調整、高台貼付後撫で。	酸化焔焼成
2	H-1 － 2 床直	高台椀 灰釉陶器	①　－ ②（2.7）	①細粒②良好 ③灰白色④底部のみ	轆轤整形。体部：欠損。底部：高台貼付後撫で。内面刷毛塗りによる施釉。	
3	H-1 － 3 竈内	甕 土師器	① [20.4] ② (15.1)	①細粒②良好 ③赤橙色④ 1/3	体部:上判に横位、中判に斜め縦位の篦削り。口縁:コの字、横撫で。頸部:横撫で、指圧痕。内：撫で。	
4	H-1 － 4 竈内	甕 土師器	① 19.9 ② (16.5)	①粗粒②良好③にぶい橙色④ 1/2	体部：上判に横位、中判に斜め縦位、下判に縦位の篦削り。縁：コの字、横撫で。頸部：横撫で、指圧痕。内：撫で。	
5	H-1 － 5 竈内	甕 土師器	① 19.7 ② (19.0)	①中粒②良好③にぶい赤褐色④ 1/3	体部:上判に横位、中判に斜め縦位の篦削り。口縁:コの字、横撫で。頸部:横撫で。内：撫で。	
6	H-2 － 1 床直	坏 土師器	① [11.5] ② 2.9	①細粒②良好③灰褐色④ 1/3	体部:内湾、器肉が厚く、口縁に近づくにつれ薄くなる。口縁:ほぼ直立、横撫で。底部：内面撫で、外面平底、篦削り。	
7	H-3 － 1 P-5	坏 須恵器	① [12.6] ② 3.4	①細粒②良好③灰色④ 1/2	轆轤整形。体部：浅く外傾。口縁：わずかに外反、轆轤撫で。底部：器肉肥厚、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
8	H-4 － 1 床直	高台椀 須恵器	①　－ ②（2.3）	①粗粒②良好③灰黄色④ 1/2	轆轤整形。体部：欠損。底部：内面撫で、赤色塗料付着。外面回転糸切り未調整、高台貼付後撫で。	赤色塗料付着
9	H-5 － 1 床直	坏 土師器	① 14.2 ② 3.3	①細粒②良好③にぶい橙色　④ 4/5	体部:緩やかに外傾。口縁:直立、横撫で。底部:浅く、丸底。篦削り、凹凸あり。内：撫で、指圧痕。	
10	H-5 － 2 床直	坏 土師器	① 13.0 ② 3.5	①細粒②良好③にぶい橙色　④ 1/2	体部:緩やかに内湾。口縁:ほぼ直立、横撫で。底部:内面撫で、指圧痕、外面平底、篦削り。	
11	H-5 － 3 床直	坏 恵器	① 13.0 ② 3.3	①細粒②良好③灰白色④ 1/3	轆轤整形。体部：穏やかに内湾、顕著な轆轤痕。口縁わずかに外反、撫で。底部：器肉肥厚、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
12	H-5 － 4 床直	高台椀 須恵器	① [15.8] ② 6.3	①粗粒②良好③灰色④ 1/2	轆轤整形。体部:外傾、顕著な轆轤痕。口縁:わずかに外反、撫で。底部:内面撫で、外面回転糸切り未調整、高台貼付後撫で。	
13	H-5 － 5 竈内	甕 土師器	① 20.2 ② (20.4)	①中粒②良好③橙色④ 3/4	体部：上判に横位、中判に斜め縦位、下判に縦位の篦削り。口縁：横撫で。頸部：横撫で、指圧痕。内面：撫で。	
14	H-5 － 6 床直	台付甕 土師器	① 11.8 ② (14.5)	①細粒②良好③にぶい橙色　④ 1/3	体部:薄い器肉、上判に横位、中～下判に縦位の篦削り。口縁:外反、横撫で。台部:内面台貼付後撫で、外面上部横撫で後縦位の篦削り。	
15	H-6 － 1 竈内	甕 土師器	① 20.0 ② (15.3)	①細粒②良好③にぶい橙④ 1/4	体部：上判に横位、中判に斜め縦位、下判に縦位の篦削り。口縁：横撫で。頸部：横撫で、指圧痕。内面：撫で。	
16	H-7 － 1 埋土	坏 須恵器	① [12.0] ② 3.5	①中粒②良好③灰白色④ 1/3	轆轤整形。体部：上げ底気味の底部から直線的に外傾。口縁：外反、撫で。底部：器肉肥厚、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
17	H-8 － 1 床直	坏 土師器	① [13.6] ② 2.6	①細粒②良好③橙色④ 1/3	体部：浅い底部からやや湾曲。口縁：ほぼ直立、撫で。底部：浅く平底。内面撫で、外面篦削り後撫で。	
18	H-8 － 2 床直	坏 須恵器	① 11.9 ② 3.6	①細粒②良好③灰色④ 1/3	轆轤整形。わずかな膨らみをもって外反。口縁:わずかに外反、撫で。底部:内面撫で、外面回転糸削り後、篦調整。	
19	D-2 － 1 床直	蓋 須恵器	① 15.1 ② 3.6	①細粒②良好③灰白色④完形	轆轤整形。天井部：水平な天井部から緩やかに口縁部にかけて湾曲。外面回転篦削り。肩部：篦撫で。端部：内・外面撫で。摘み：環状摘み、篦調整、貼付後撫で。	
20	H-9 － 1 埋土	坏 土師器	① 12.4 ② 3.6	①細粒②良好③橙色④ 4/3	体部：器肉が薄く、緩やかに「S」字を描く。内面撫で、指圧痕、外面篦削り、指圧痕。口縁：外反、横撫で。底部：平底ぎみ、内面撫で、外面篦削り。	
21	H-9 － 2 P-3	坏 須恵器	① 13.8 ② 3.2	①中粒②良好③灰褐色④ 2/5	轆轤整形。体部:直線気味に外反。口縁:外反、撫で。底部:器肉肥厚、内面撫で、外面回転轆轤なで後、回転篦削り調整。	酸化焔焼成
22	H-9 － 3 埋土	甕 土師器	① 18.7 ② (6.2)	①細粒②良好③にぶい赤褐色④口縁～胴部上位	体部：上判に横位の篦削り。内面撫で、外面指圧痕。口縁：コの字内・外面横撫で。頸部：内面撫で、外面横撫で、指圧痕。	
23	H-11 － 1 床直	坏 須恵器	① [11.0] ② 3.5	①細粒②良好③灰白色④ 1/3	轆轤整形。体部：外傾。口縁：外反、撫で。底部：器肉肥厚、回転篦切り後、回転篦削り調整。	
24	H-11 － 2 床直	甕 土師器	① 22.8 ② (12.0)	①粗粒②良好③橙色④口縁～胴部上位	体部:上判に横位、中判に斜め縦位の篦削り。口縁:器肉が薄く短く外反、横撫で。頸部：横撫で。内面：撫で。	
25	B-4 グリッド	高台皿 灰釉陶器	① [13.2] ② 3.0	①細粒②良好③灰オリーブ④ 1/3	体部：外傾。口縁：外反。底部：回転篦削り調整。高台部：削り出し高台。外面漬け掛による施釉。	

(注)

①層位は、「床直」：床面から 10cm 未満の層位からの検出、「埋土」：床面から 10cm 以上の層位からの検出の２段階に分けた。竈内の検出については、「竈内」と記載した。

②口径と、器高の単位は cm であり、重さの単位は g である。現存値を ( )、復元値を [ ] で示した。その他の小片については、所属部位を記載した。

③胎土は、細粒 (1.0mm 未満)、中粒 (1.0 ～ 2.0mm 未満)、粗粒 (2.0mm 以上) とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。

④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。

⑤色調は土器外面を観察し、色名は新版標準土色帖 (小山・竹原 1976) によった。

VI　成果と問題点

芳賀団地遺跡は昭和51年度から昭和55年度までの5年間にわたり大規模な発掘調査が行われてきた。芳賀東部団地遺跡は東西を開析谷に挟まれた3つの台地からなり、東側台地・中央台地・西側台地と称している。今回、発掘調査を行った区域は西側台地の中央部北に当たる。住居形態や出土遺物から、8世紀初頭から10世紀前葉の遺構と考えられる。

ここでは、これまでの芳賀東部団地遺跡群の時期区分に従って、V期(8世紀初頭前半~8世紀前葉)、VI期(8世紀中葉)、VII期(8世紀後葉)、VIII期(9世紀前葉)、IX期(9世紀中葉)、X期(9世紀後葉)、XI期(10世紀前半)とし、今回の調査によって明らかになった遺構・遺物について検討していきたい。

8世紀初頭から9世紀後葉までの竪穴式の住居址12軒、掘立柱建物址1棟、土坑12基、ピット49基(掘立柱建物址を含む)、落ち込み1基、溝跡1条が確認できた。

V期(8世紀初頭前半~8世紀前葉)

この時期の西側台地では、竪穴式住居の数が前期(IV期 7世紀後半)に比べ1.5倍弱となり、占地箇所も中央台地から東端まで大きく広がり始める。

竪穴式住居址1軒(H-11)を検出した。調査区の関係で全体が検出されていないが、隅丸方形状の住居と推定される。竈周辺を除く南北壁沿いに周溝を確認できた。東壁南寄りに竈を置き、構築材として粘土を主として使用している。また、竈の南隣りでは棚状の張り出しを設けている。遺物は、器肉が厚く回転篦削り後調整がしてある須恵器の坏が出土した。

VI期(8世紀中葉)

竪穴式住居址1軒(H-5)土坑1基(D-2)を検出した。H-5は周溝がなく、竈は東壁中央寄りに付設され、構築材として白色粘土を主とし、安山岩を補強材・袖石として使っている。H-5は他の住居と比べて出土遺物の量が多く、遺物の時期もVI期からVIII期までと幅が広かったため、時期を判断するのが困難だった。しかし、H-5では東壁に竈が2基並ぶように検出され、1基は旧竈、もう1基は新竈と、竈の造り替えを行っている。竈だけ造り替え同じ住居に長く住んでいた可能性がある。

H-8とほぼ重なる状態で検出されたD-2はH-8にほぼ削平されている。H-8に付設する棚状遺構と考えたが、出土した完形の須恵器が、8世紀中葉の蓋の特徴に当てはまる。また、H-8の出土遺物と時代が異なってくるため、H-8とD-2は別の遺構であると判断した。

VII期(8世紀後葉)

竪穴式住居址2軒(H-2・10・12)を検出した。2軒とも調査区が限られていたため一部しか検出されなかったが、埋土と出土遺物から時期を判断した。H-2は検出されている部分だけで、南北4.80mと他の住居より規模が大きいことが分かった。H-2のすぐ北西には掘立柱建物址(B-1)が1棟検出されている。掘立柱建物については、柱穴内出土遺物もほとんど無いため時期の決定が困難であるが、『芳賀団地遺跡群II』によると、芳賀東部団地遺跡、西側台地で検出された掘立柱建物の時期の上限はV期(8世紀初頭~前葉)で、下限は一番古い掘立柱建物でIX期(9世紀中葉)である。また、大型住居の西・北側には、住居に伴う掘立柱跡が集中的に検出されている例が多く、また主軸方向を含め、B-1の場合もH-2に伴う作業小屋や納屋的な用途で使われていた可能性が高い。

VIII 期 (9 世紀前葉)

芳賀東部団地西側台地では、前期に比べると竪穴式住居が倍増してくる時期である。本遺跡では、竪穴式住居址 2 軒 (H-8・H-9) を検出した。主軸方向はともに N − 8°− E 以内の傾きを保ち、南隅に竈を付設し、竈の構築材として粘土を使用している。H-9 に関しては天井石と袖の補強材として安山岩を用いている。竈周辺を除く部分に周溝をめぐらせている。また、南壁中央付近に出入口の梯子跡と思われる直径 22cm 程度の柱穴が 2 基並んで検出された。H-9 は検出された住居の中で一番規模が大きく、H-10 と重複している。覆土にロームブロックを多く含んでくるため､H-10 を埋めて､H-9 を造ったと考えられる。H-9 は出土遺物の量が多かったのに対し、H-10 は破片が数点出土しただけだった。

H-9 の北側に位置する H-8 も H-7 と重複し、出土遺物、重複関係から H-8 を切って H-7 が造られ、住居の時期が近いため建て替えと考えられる。

IX 期 (9 世紀中葉)

西側台地では竪穴式住居の数が更に倍増し古代集落の最盛期を迎える。竪穴式住居址を 2 軒検出した。調査区が限られていたため、H-6 に関しては竈のみ、H-7 も住居全体を検出することが出来なかった。H-7 は東壁中央に竈を付設し、H-8 と重複している。H-7・8 ともに竈は堀方のみの検出だったが、H-6 は残存状態が良く、天井石に用いられた大型の安山岩や、補強材、支脚として加工された扁平礫が残っていた。H-7 と H-6 は同時期だが、重複関係から H-6 の方が新しく、建て替えた可能性が高い。

X 期 (9 世紀後葉)

古代集落の最盛期はこの時期まで続く。竪穴式住居址 2 軒 (H-1・3) を検出し、それぞれ竈を東壁に付設し、構築材として粘土を主として使っている。H-1 については、加工した安山岩を補強材や天井石として使用している石組みの竈である。また、燃焼部辺りから少なくとも 3 点の「コの字」口縁の甕が検出された。竈南横には僅かだが土坑状の浅い堀り込みが見られ、棚として使った可能性が考えられる。H-3 の竈の構築材は、粘土のみで H-1 の様な補強材の石は検出されなかった。灰釉陶器の高台皿が H-1 は床面から、H-3 は住居周辺から出土している。また、H-1 から石鏃の柄、H-3 から刀子などの鉄製品も検出された。

XI 期 (10 世紀前半)

古代集落における最盛期もわずかIX ~X 期の 2 期で終わる。XI 期には衰退が始まり、竪穴式住居は少なくなっていく。H-4 は確認面から浅いことと、竈も O-1 に切られているためか、良好に検出されなかった。残存状態が悪かったが、1 点のみ床面から出土している須恵器の高台椀から時代を判断した。高台椀の内側にはベンガラが付着していた。同じく床面から刀子が出土している。

また、土坑･柱穴については、埋土の様子と形態によりいくつかに大別することができる。いくつかは、奈良･平安時代に属する可能性があるが、ほとんどの遺構が奈良・平安時代以前の古代の物と思われるが詳しくは不明である。W-1 号溝跡についても、遺物もなく調査区南端から H-9 号住居跡までの間を主軸方向 N − 2°− E を維持しながら北に上り、H-9 にぶつかるとほぼ 90°東に曲がり L 字状になる。集落を区画する溝と考えたが、今までの調査で検出されている区画溝と比べても幅が 52cm と狭く、深さも 12cm 程度であるため集落を区画する溝の可能性は低い。

今回の調査は、調査範囲が狭く限定されたものであった。本遺跡の位置する西側台地はこれまでの調査で、幅

広い台地の南半分に古代集落が集中して展開し、掘立柱建物群が確認されている。掘立柱建物を多数つくれる有力な集団が居住していたと考えられる。このような集落の立地は、水田場所に想定される開析谷の占有とも関わってくるのであろう。すなわち、有力な集団は水田耕作が可能な谷地を臨む場所に立地したことが考えられる。西側台地は大きく３つの集落に分けられ、もっとも谷地に近い集落では台地内部を占有しない。これは、生産基盤の中心を水田耕作に置いていることが分かる。残る２集落は、台地内部に広大な敷地を有している事から畑を所有していたものと考えられる。本遺跡の様に、集落群とは少し離れた場所に位置しているが比較的多くの住居址が検出され、規模の大きい住居のそばからは掘立柱建物を確認できた。このような台地内部に集落を確認できたのは、水田耕作だけでなく畑作にもウェイトを置く事によって、人口増を伴い台地内部や標高の高い地域へ居住区が拡大したと考えられる。

今までの調査で本遺跡周辺からも住居址や掘立柱建物址が検出されているため、一つの集落になる可能性も考えられる。

〈参考文献〉

前橋市教育委員会　1984~94　『芳賀団地遺跡群 第１巻～第５巻』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1998　『芳賀東部団地遺跡』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　1988　『柳久保遺跡群 VII』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団　2003　『五代中原 III 遺跡・五代山街道 I 遺跡・五代山街道 II 遺跡』
坂口 一・三浦京子　1986　「奈良・平安時代の土器の編年」群馬県史研究第 24 号

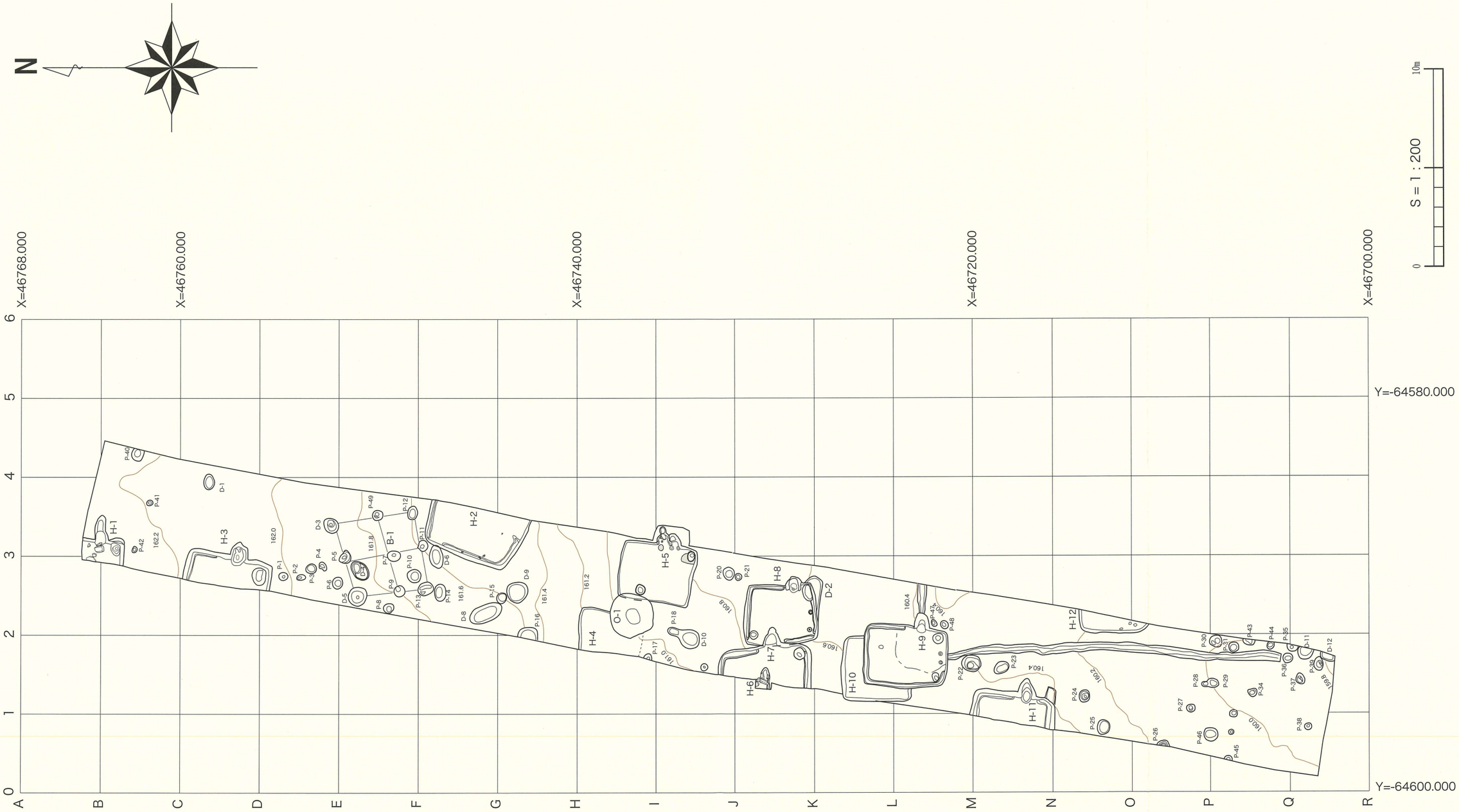
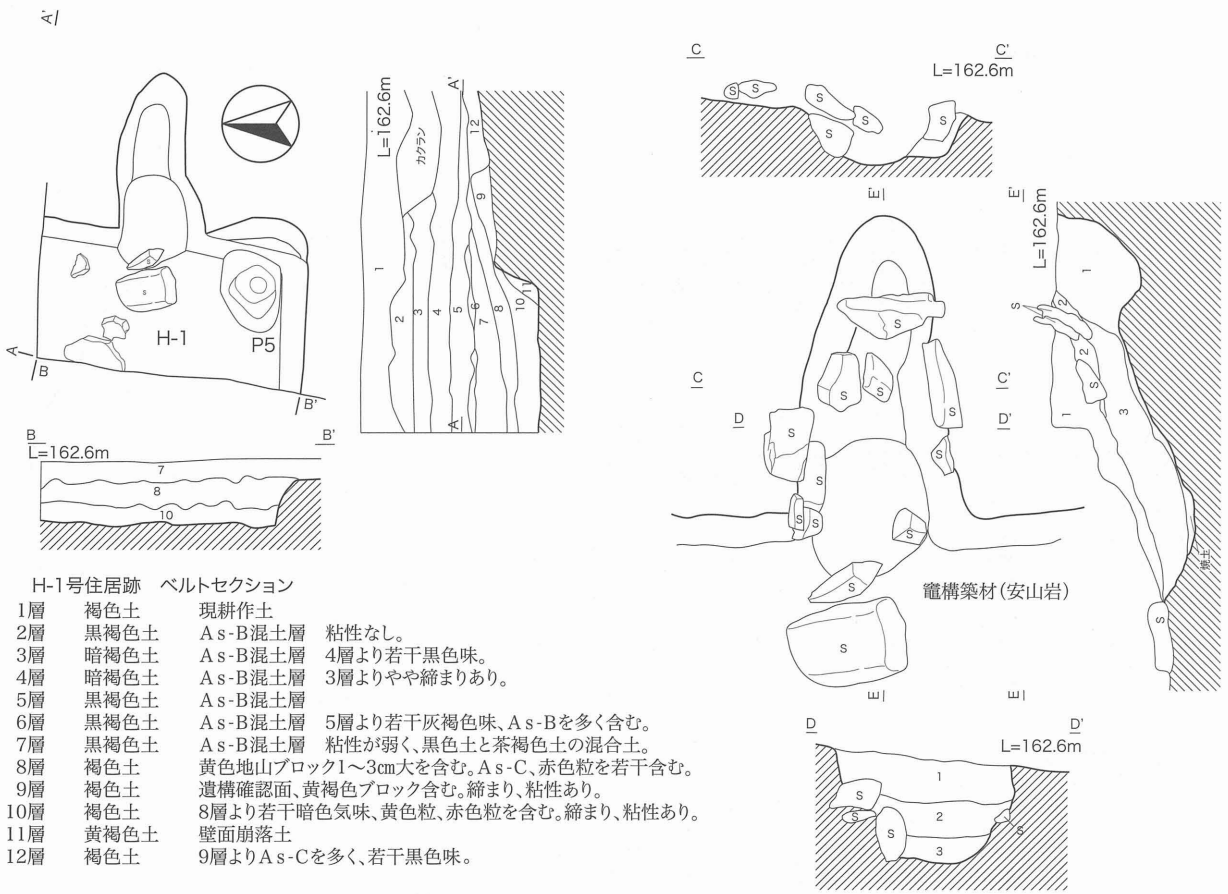

N
S = 1 : 200
0
10m
X=46768.000
X=46760.000
X=46740.000
X=46720.000
X=46700.000
Y=-64580.000
Y=-64600.000
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
0
1
2
3
4
5
6
H-1
H-2
H-3
H-4
H-5
H-6
H-7
H-8
H-9
H-10
H-11
H-12
B-1
D-1
D-2
O-1

Fig.4遺構全体図

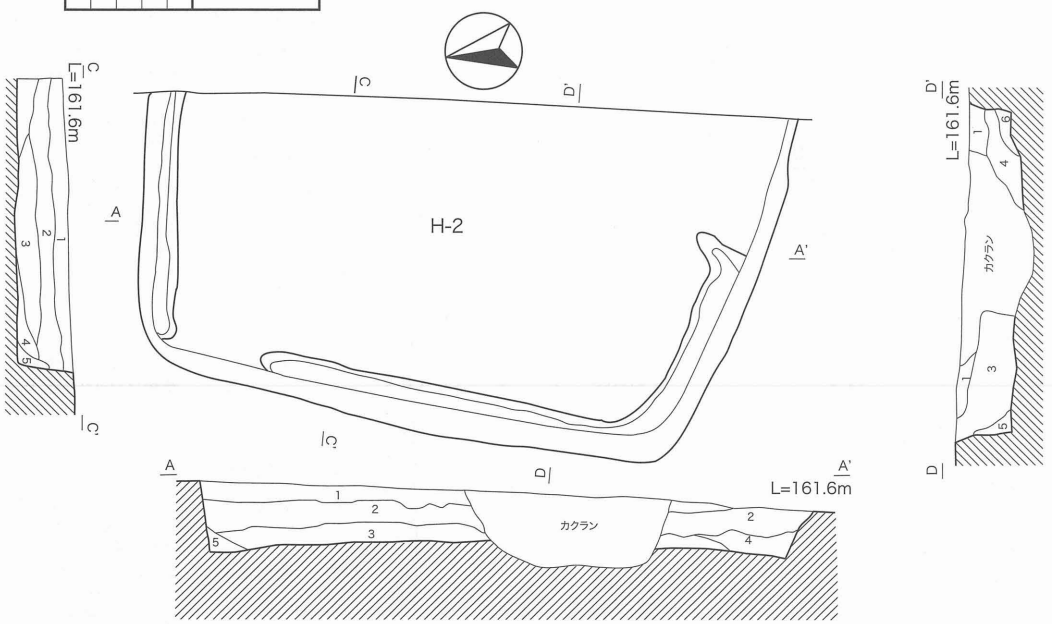


H-1号住居跡　ベルトセクション

1層	褐色土	現耕作土
2層	黒褐色土	As-B混土層　粘性なし。
3層	暗褐色土	As-B混土層　4層より若干黒色味。
4層	暗褐色土	As-B混土層　3層よりやや締まりあり。
5層	黒褐色土	As-B混土層
6層	黒褐色土	As-B混土層　5層より若干灰褐色味、As-Bを多く含む。
7層	黒褐色土	As-B混土層　粘性が弱く、黒色土と茶褐色土の混合土。
8層	褐色土	黄色地山ブロック1～3cm大を含む。As-C、赤色粒を若干含む。
9層	褐色土	遺構確認面、黄褐色ブロック含む。締まり、粘性あり。
10層	褐色土	8層より若干暗色気味、黄色粒、赤色粒を含む。締まり、粘性あり。
11層	黄褐色土	壁面崩落土
12層	褐色土	9層よりAs-Cを多く、若干黒色味。

H-1号住居跡　竈セクション

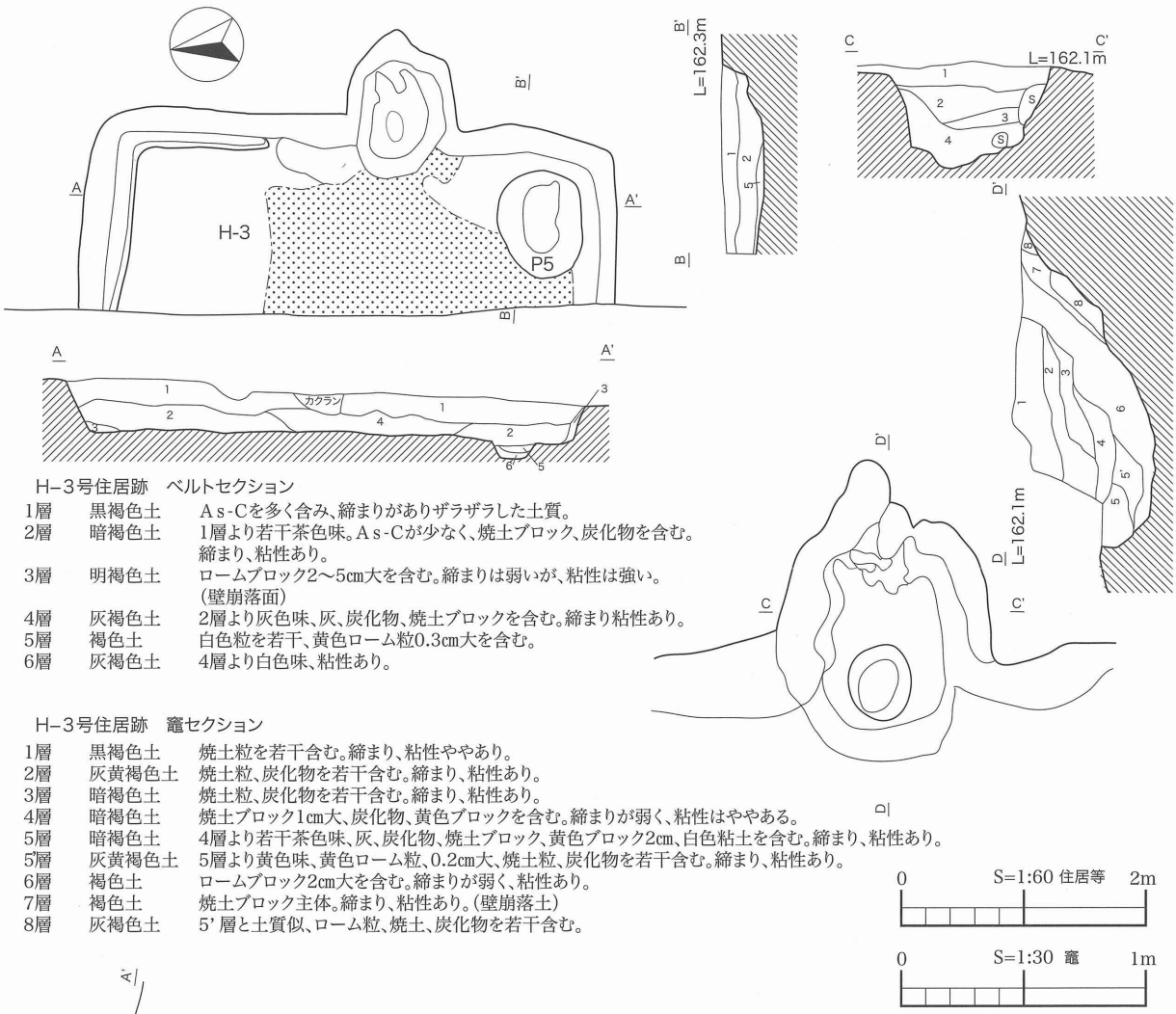
1層	暗褐色土	As-Cを多く含み、黄色粒を若干含む。粘性なし。
2層	褐色土	黄色粒、焼土粒を含む。締まり、粘性ややあり。
3層	褐色土	2層より赤色味、焼土ブロックを多く含む。締まりあり。



H-2号住居跡　ベルトセクション

1層	黒褐色土	As-Cが多く、黄色粒、赤色粒を含む粗くザラザラした土質。
2層	褐色土	1層よりAs-Cは少なく、黄色粒、黄色ブロックの混土層。締まりなし。
3層	褐色土	2層より黄色味、As-Cを若干、黄色粒、黄色ブロック1～2cm大を含む。粘性あり。
4層	黒褐色土	2層より暗気味、As-C、黄色粒、炭化物を含む。3層より粗く粘性が弱い。
5層	黒黄色土	黒色味、黄色粒土ブロックを含む。締まりが弱い。

Fig.5　H-1・H-2 住居址



H−3号住居跡　ベルトセクション

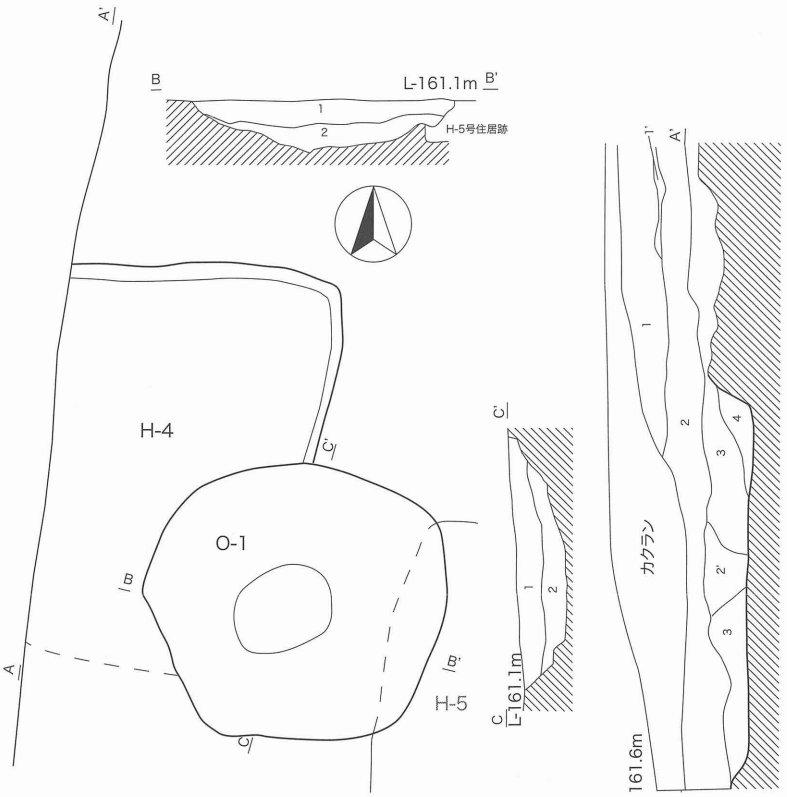
1層	黒褐色土	As-Cを多く含み、締まりがありザラザラした土質。
2層	暗褐色土	1層より若干茶色味。As-Cが少なく、焼土ブロック、炭化物を含む。締まり、粘性あり。
3層	明褐色土	ロームブロック2〜5cm大を含む。締まりは弱いが、粘性は強い。(壁崩落面)
4層	灰褐色土	2層より灰色味、灰、炭化物、焼土ブロックを含む。締まり粘性あり。
5層	褐色土	白色粒を若干、黄色ローム粒0.3cm大を含む。
6層	灰褐色土	4層より白色味、粘性あり。

H−3号住居跡　竈セクション

1層	黒褐色土	焼土粒を若干含む。締まり、粘性ややあり。
2層	灰黄褐色土	焼土粒、炭化物を若干含む。締まり、粘性あり。
3層	暗褐色土	焼土粒、炭化物を若干含む。締まり、粘性あり。
4層	暗褐色土	焼土ブロック1cm大、炭化物、黄色ブロックを含む。締まりが弱く、粘性はややある。
5層	暗褐色土	4層より若干茶色味、灰、炭化物、焼土ブロック、黄色ブロック2cm、白色粘土を含む。締まり、粘性あり。
5'層	灰黄褐色土	5層より黄色味、黄色ローム粒、0.2cm大、焼土粒、炭化物を若干含む。締まり、粘性あり。
6層	褐色土	ロームブロック2cm大を含む。締まりが弱く、粘性あり。
7層	褐色土	焼土ブロック主体。締まり、粘性あり。(壁崩落土)
8層	灰褐色土	5' 層と土質似、ローム粒、焼土、炭化物を若干含む。

0　S=1:60 住居等　2m

0　S=1:30 竈　1m



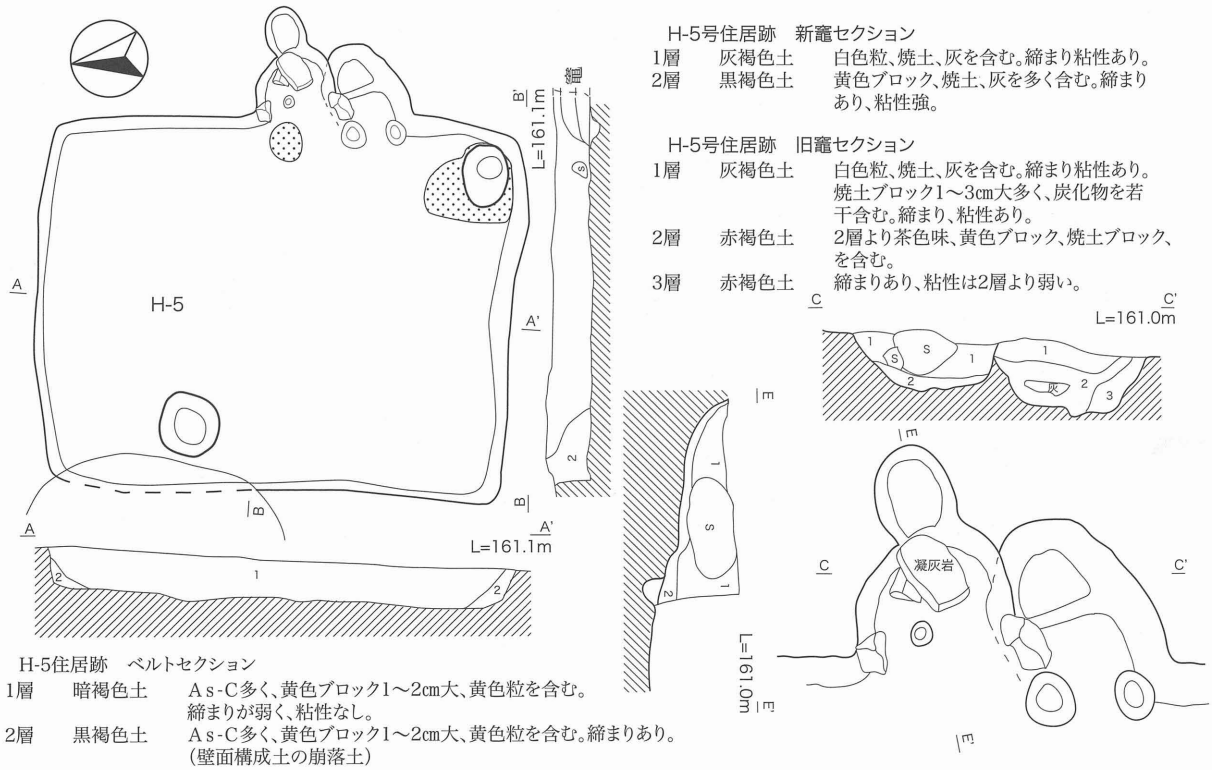
H−4住居跡　壁セクション

1層	黒褐色土	As-B混土層、ザラザラした土質、締まり、粘性なし。
1'層	黒褐色土	1層より黒色味。
2層	黒褐色土	1層より若干茶色味、ザラザラした土質、締まり、粘性なし。
2'層	黒褐色土	As-B以降の落ち込み黄色粒を若干含み、2層より締まりあり。
3層	褐色土	As-C、黄色粒、黄色ブロックを含む。ホクホクした土質、粘性なし。
4層	褐色土	3層より若干黒色味、黄色ブロックを若干含む。

O−1　ベルトセクション

1層	暗褐色土	黄色粒、黄色ブロック1〜2cm大、白色粒を含む。締まりなし。
2層	暗褐色土	1層より黒色味、黄色ブロック2cm大、白色粒を含む。締まりあり、粘性ややあり。

Fig.6　H-3・H-4 住居址



H-5号住居跡　新竈セクション

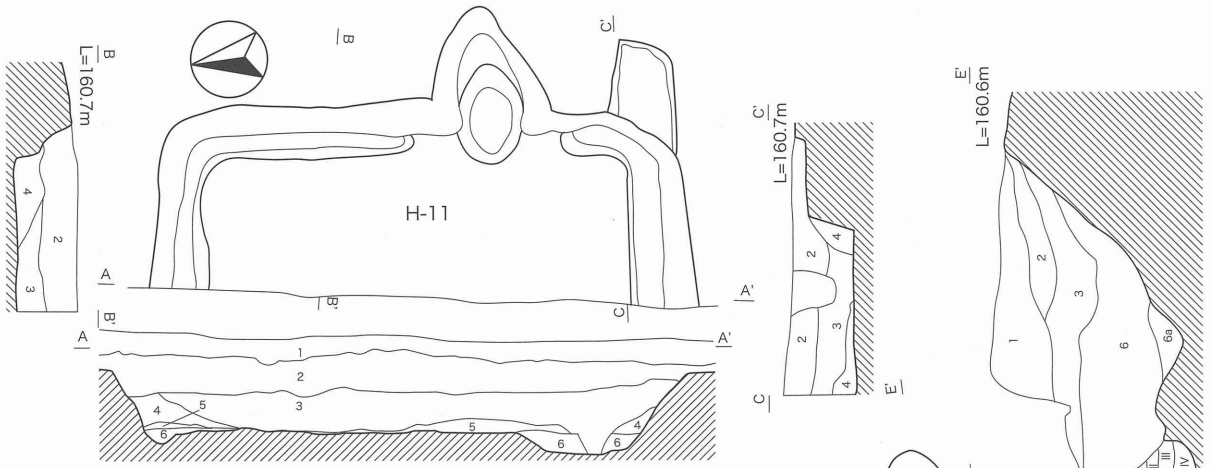
1層　灰褐色土　白色粒、焼土、灰を含む。締まり粘性あり。
2層　黒褐色土　黄色ブロック、焼土、灰を多く含む。締まりあり、粘性強。

H-5号住居跡　旧竈セクション

1層　灰褐色土　白色粒、焼土、灰を含む。締まり粘性あり。焼土ブロック1～3cm大多く、炭化物を若干含む。締まり、粘性あり。
2層　赤褐色土　2層より茶色味、黄色ブロック、焼土ブロック、を含む。
3層　赤褐色土　締まりあり、粘性は2層より弱い。

H-5住居跡　ベルトセクション

1層　暗褐色土　As-C多く、黄色ブロック1～2cm大、黄色粒を含む。締まりが弱く、粘性なし。
2層　黒褐色土　As-C多く、黄色ブロック1～2cm大、黄色粒を含む。締まりあり。(壁面構成土の崩落土)



H-11号住居跡　壁セクション

1層　黒褐色土　現耕作土、上端As-B混土、As-C、赤色粒を含む。粗く、ザラザラしている。締まりあり、粘性なし。
2層　暗褐色土　黒色味、As-Cを多く、黄色粒を含む。締まり、粘性なし。
3層　暗褐色土　2層よりAs-Cが若干少なく、赤色粒、黄色粒、黄色ブロック1～2.5cm大を含む。締まりあり、粘性ややあり。
4層　黒褐色土　黒色味が強く、黄色ブロック1～1.5cm大を含む。3層より粘性強。　(壁面形成土)
5層　白灰色土　赤色ブロック2～3cm大を全体的に多く含み、白色粘土、灰、焼土、黄色粒、炭化物を若干含む。締まりがなく、粘性が強い。
6層　黒褐色土　黄色地山ロームブロック大を含む。硬く締まる。粘性なし。床面形成土(貼床面)

H-11号住居跡　竈セクション

1層　暗褐色土　As-C、黄色粒を多く含む。締まりあり、粘性なし。
2層　赤褐色土　被熱粘土の塊。天井崩落土。締まり、粘性なし。
3層　褐色土　白色粒、黄色粒、黄色ブロックを含む。締まりが強く、粘性あり。
4層　褐色土　やや黒色味、白灰色土、焼土ブロック、炭化物を含む。締まり、粘性あり。
5層　白灰色土　白灰色粘質土と焼土ブロック主体。締まりなし、粘性あり。
6層　暗褐色土　赤色味が強く、焼土粒、焼土ブロック主体。締まりがなく、粘性が強い。
6a層　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロック主体。赤色粒を多く含む。締まりがなく、粘性が強い。
Ⅰ層　褐色土　白色粒、焼土、灰、炭化物を含み、黄色粒を若干含む。締まりが強く、粘性なし。
Ⅱ層　暗灰色土　黒色粘土、焼土、白色粒、灰を含む。締まり、粘性あり。
Ⅲ層　暗褐色土　赤色味が強く、焼土粒、焼土ブロック主体。締まりがなく、粘性が強い。
Ⅳ層　暗褐色土　焼土粒、焼土ブロック主体。赤色粒を多く含む。締まりがなく、粘性が強い。

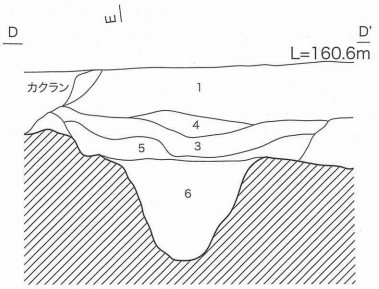
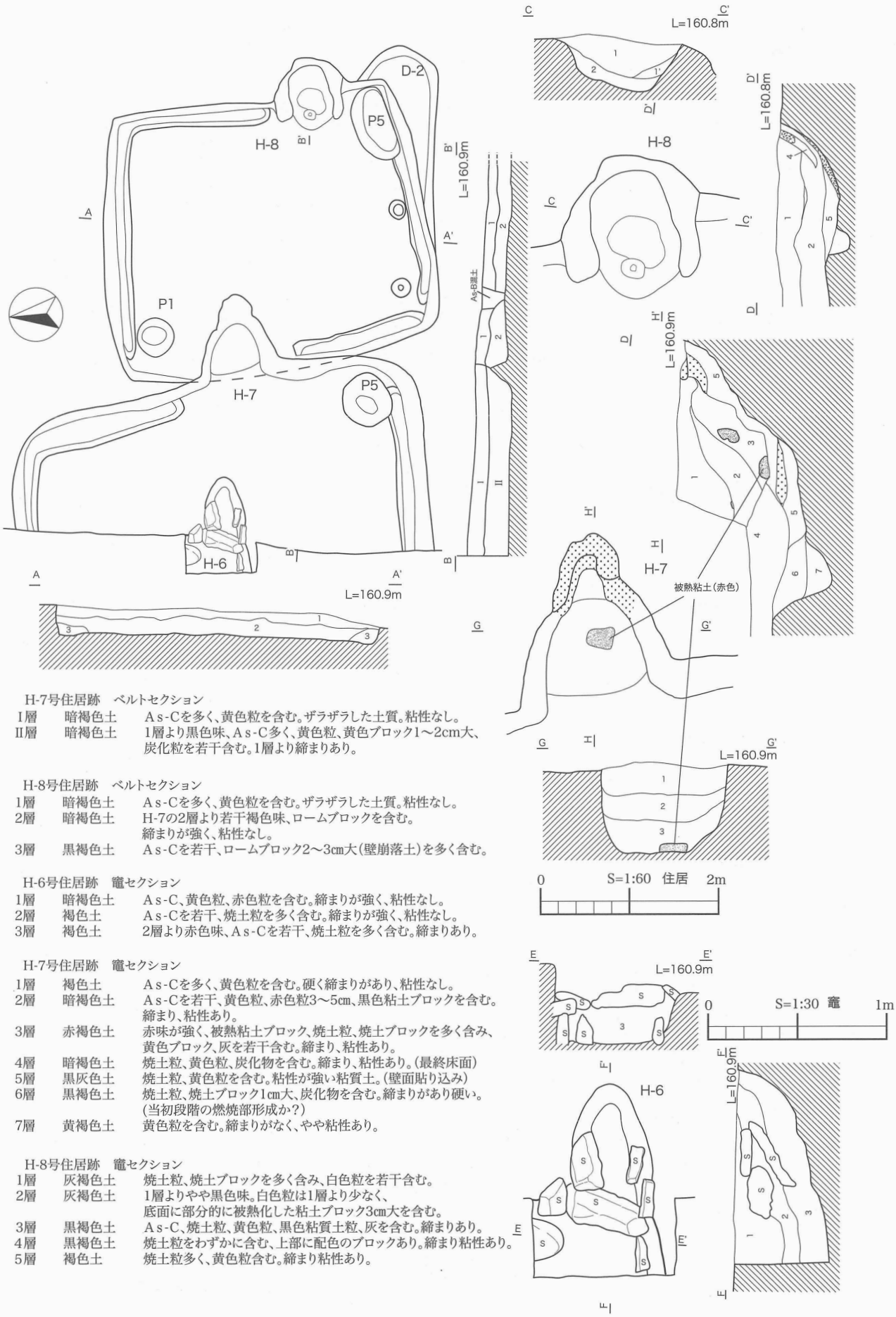


Fig.7　H-5・H-11 住居址



H-7号住居跡　ベルトセクション

I層	暗褐色土	As-Cを多く、黄色粒を含む。ザラザラした土質。粘性なし。
II層	暗褐色土	1層より黒色味、As-C多く、黄色粒、黄色ブロック1～2cm大、炭化粒を若干含む。1層より締まりあり。

H-8号住居跡　ベルトセクション

1層	暗褐色土	As-Cを多く、黄色粒を含む。ザラザラした土質。粘性なし。
2層	暗褐色土	H-7の2層より若干褐色味、ロームブロックを含む。締まりが強く、粘性なし。
3層	黒褐色土	As-Cを若干、ロームブロック2～3cm大(壁崩落土)を多く含む。

H-6号住居跡　竈セクション

1層	暗褐色土	As-C、黄色粒、赤色粒を含む。締まりが強く、粘性なし。
2層	褐色土	As-Cを若干、焼土粒を多く含む。締まりが強く、粘性なし。
3層	褐色土	2層より赤色味、As-Cを若干、焼土粒を多く含む。締まりあり。

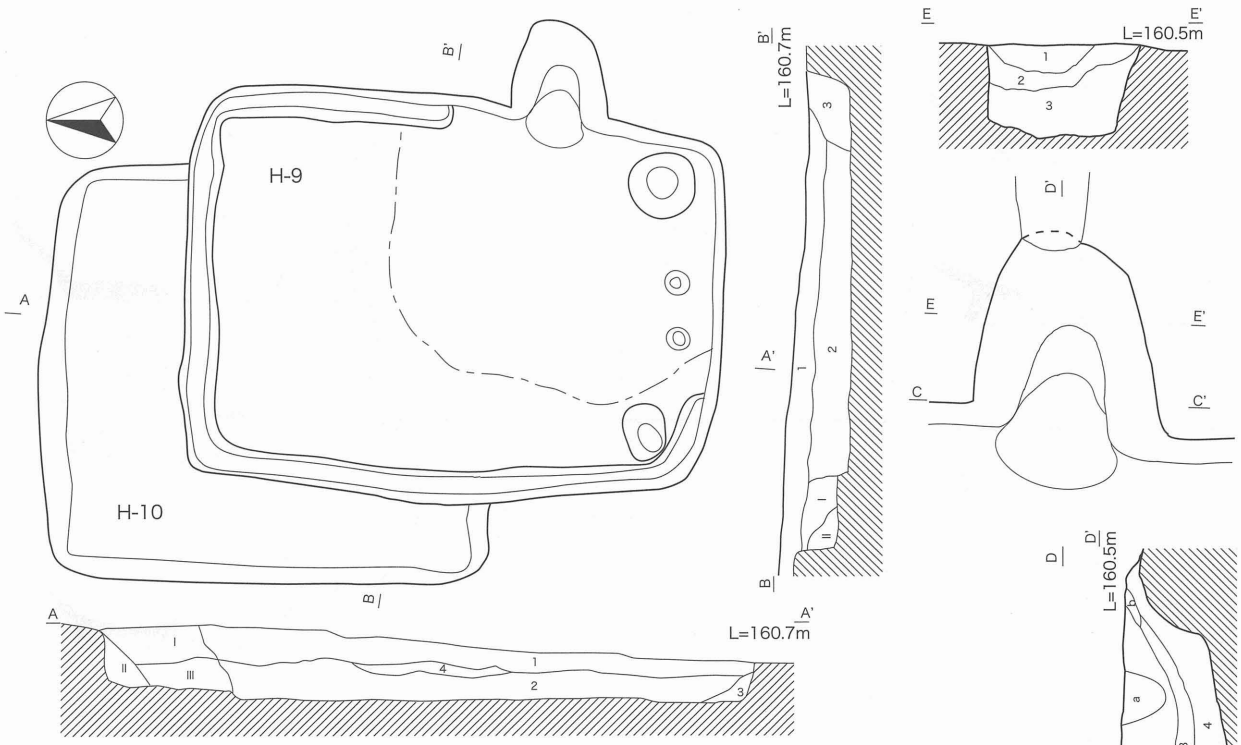
H-7号住居跡　竈セクション

1層	褐色土	As-Cを多く、黄色粒を含む。硬く締まりがあり、粘性なし。
2層	暗褐色土	As-Cを若干、黄色粒、赤色粒3～5cm、黒色粘土ブロックを含む。締まり、粘性あり。
3層	赤褐色土	赤味が強く、被熱粘土ブロック、焼土粒、焼土ブロックを多く含み、黄色ブロック、灰を若干含む。締まり、粘性あり。
4層	暗褐色土	焼土粒、黄色粒、炭化物を含む。締まり、粘性あり。(最終床面)
5層	黒灰色土	焼土粒、黄色粒を含む。粘性が強い粘質土。(壁面貼り込み)
6層	黒褐色土	焼土粒、焼土ブロック1cm大、炭化物を含む。締まりがあり硬い。(当初段階の燃焼部形成か?)
7層	黄褐色土	黄色粒を含む。締まりがなく、やや粘性あり。

H-8号住居跡　竈セクション

1層	灰褐色土	焼土粒、焼土ブロックを多く含み、白色粒を若干含む。
2層	灰褐色土	1層よりやや黒色味。白色粒は1層より少なく、底面に部分的に被熱化した粘土ブロック3cm大を含む。
3層	黒褐色土	As-C、焼土粒、黄色粒、黒色粘質土粒、灰を含む。締まりあり。
4層	黒褐色土	焼土粒をわずかに含む、上部に配色のブロックあり。締まり粘性あり。
5層	褐色土	焼土粒多く、黄色粒含む。締まり粘性あり。

Fig.8　H-6～8住居址



H-9,10号住居跡　ベルトセクション

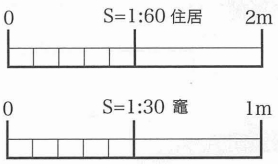
1層	暗褐色土	As-C、黄色粒を含む。赤色粒、炭化物を若干含む。粘性がなく、ザラザラした土質。
2層	暗褐色土	As-C、黄色粒、黄色ブロック2㎝大を含む。1層より締まりがよく、やや粘性あり。
3層	黒褐色土	2層より黒色味、As-Cを若干含み、黄色粒がやや多い。2層より締まりが弱い。
4層	茶褐色土	黄色ロームブロック1～4㎝大、炭化物ブロック2㎝大を含む。締まりあり、粘性なし。
Ⅰ層	黒褐色土	As-Cをやや多く含み、2層より黄色粒を含む。2層より締まりが弱い。
Ⅱ層	黒褐色土	Ⅰ層より黒色味、As-C、炭化物を若干含む。締まりが弱い。(H-10)
Ⅲ層	黒褐色土	As-Cを若干、黄色ブロック大を含む。締まりがあり、2層よりやや粘性あり。

H-9号住居跡　竈セクション

1層	暗褐色土	As-Cを多く、黄色粒、焼土粒、炭化物をわずかに含む。硬く粗い。締まりあり、粘性なし。
a層	黒褐色土	白色粒、黄色粒を若干含む。締まり、粘性あり。
b層	黄褐色土	焼土粒を若干含み、粘性あり。(竈外側地山流れ込み)
2層	褐色土	焼土を多く含み、黄色粒、灰を僅かに含む。締まり、粘性あり。
3層	褐色土	炭化物・黄色粒、灰・焼土を粒状に僅かに含む。締まり、粘性あり。
4層	赤褐色土	焼土ブロックを大量に含む。締まり、粘性あり。

H-12号住居跡　ベルトセクション

1層	黒褐色土	現耕作土
2層	暗褐色土	上端に若干As-B混土。As-Cを含む粗くザラザラした土質。締まりあり、粘性なし。
3層	暗褐色土	やや黒色味、As-C、赤色粒、黄色粒を含む。締まりあり、粘性なし。
4層	暗褐色土	3層よりわずかに茶色味。黄色ブロック1～2㎝大を含む。締まりあり、粘性ややあり。
5層	黒色土	黄色粒、白色粒、炭化物を含む。締まりなし、粘性なし。



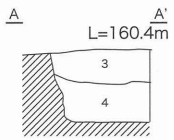


Fig.9　H-9・H-10・H-12 住居址

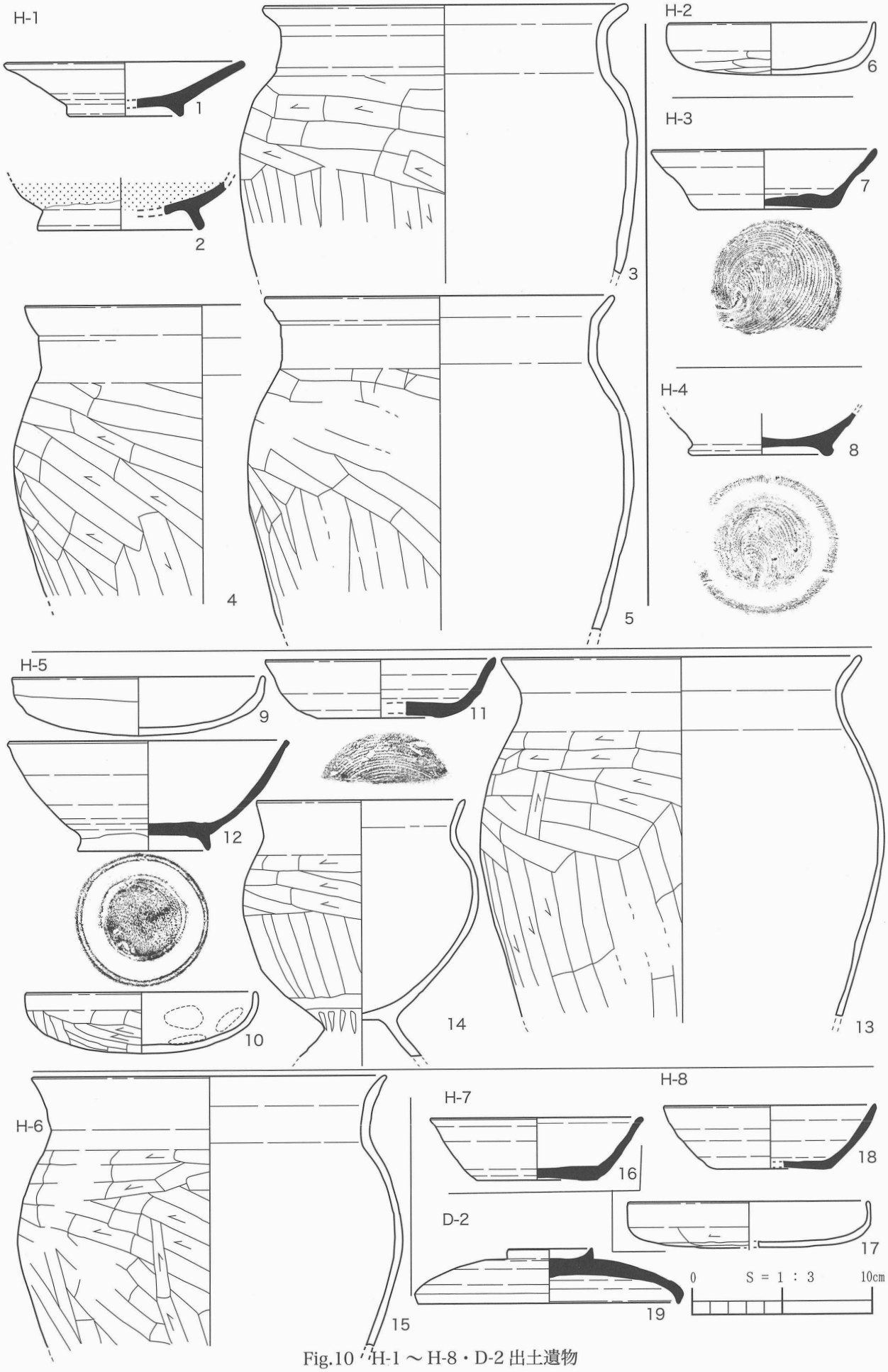


Fig.10 H-1 ～ H-8・D-2 出土遺物

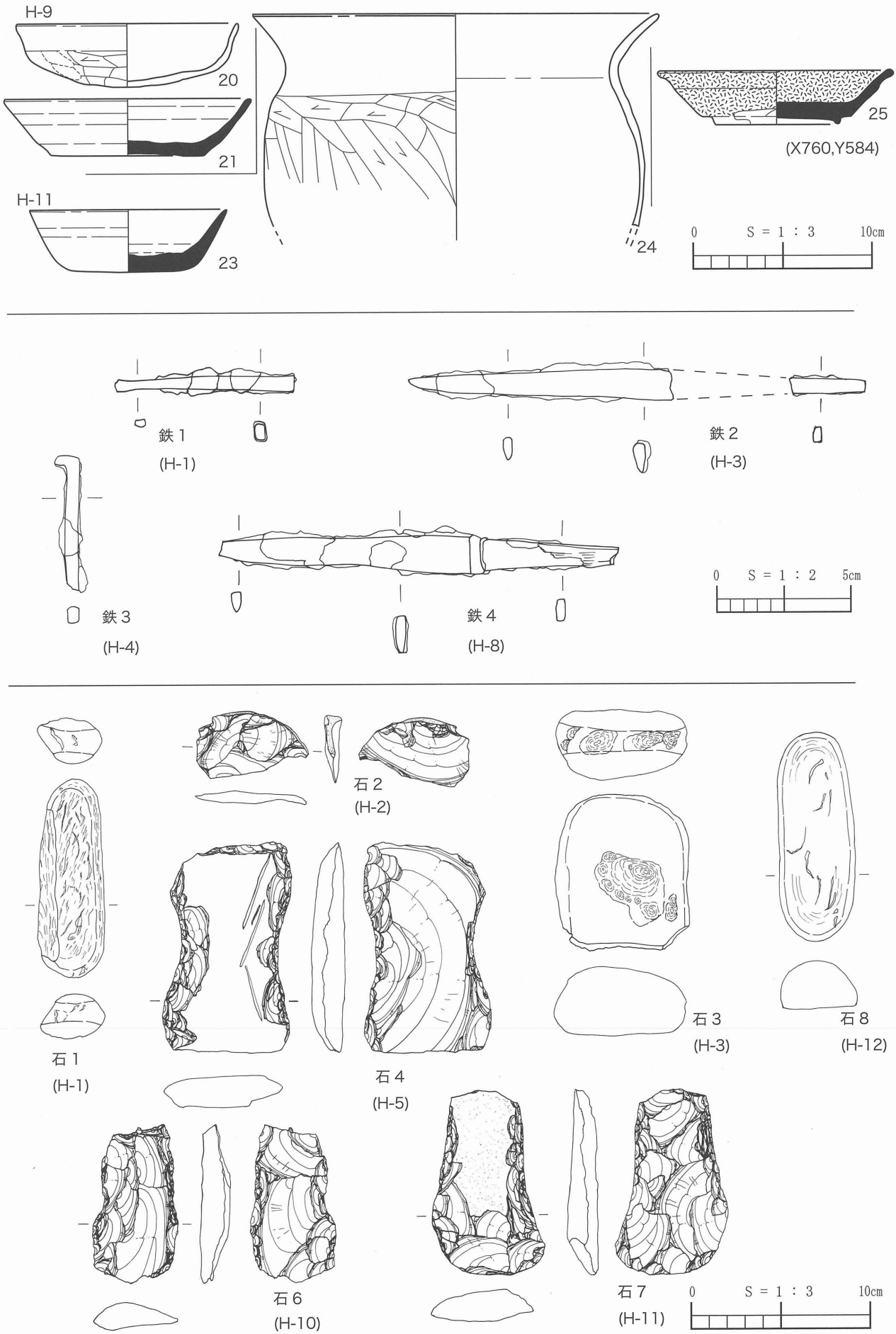
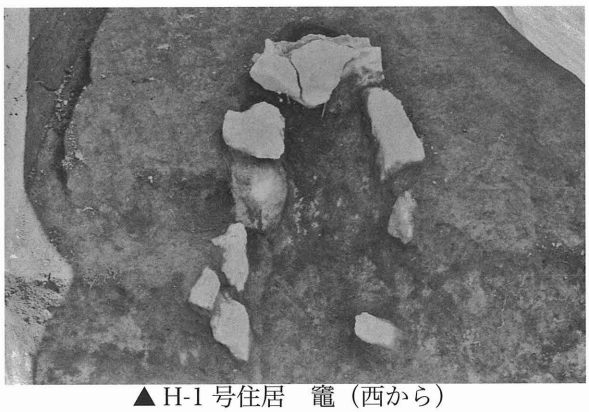


Fig.11　H-9・11 号住居址出土の土器、鉄器・鉄製品、石器石製品・グリッド出土の土器

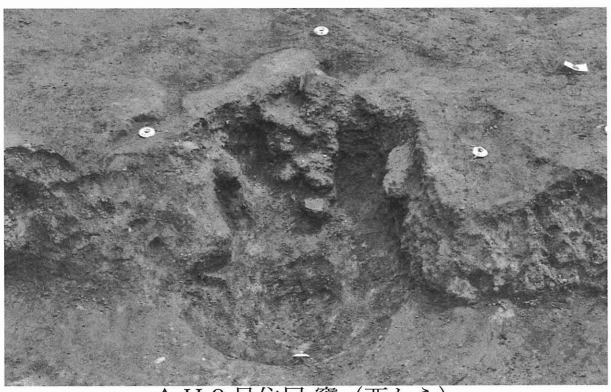
▲H-1 号住居（西から）

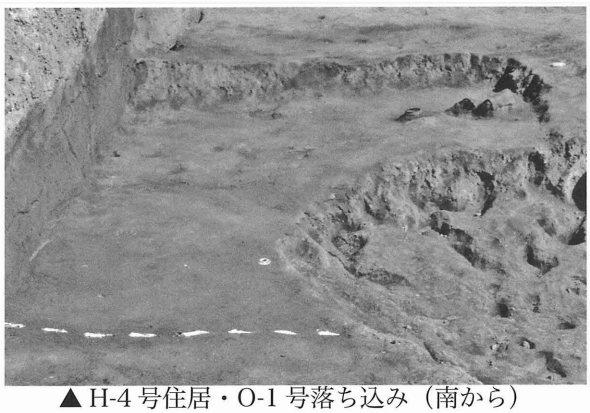
▲H-1 号住居　北壁セクション（南から）


▲H-1 号住居　竈（西から）

▲H-2 号住居（南から）

▲H-3 号住居（西から）


▲H-3 号住居 竈（西から）


▲H-4 号住居・O-1 号落ち込み（南から）

▲H-5 号住居（西から）

▲H-5 号住居 竈（西から）

▲H-6 号住居　竈（西から）

▲H-6 号住居　竈セクション（南から）

▲H-7 号住居　竈セクション（南西から）

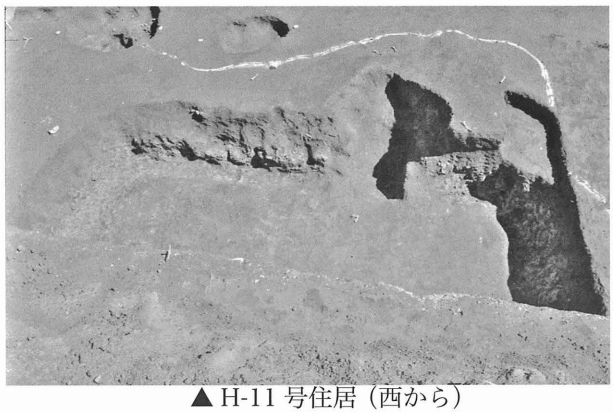
▲H-6・7・8 号住居（西から）

▲D-2 号土坑　遺物出土状況（西から）

▲H-9・10 号住居（西から）

▲H-9 号住居 竈（西から）

▲H-11 号住居 竈（西から）



▲H-11 号住居（西から）

▲H-12 号住居（西から）

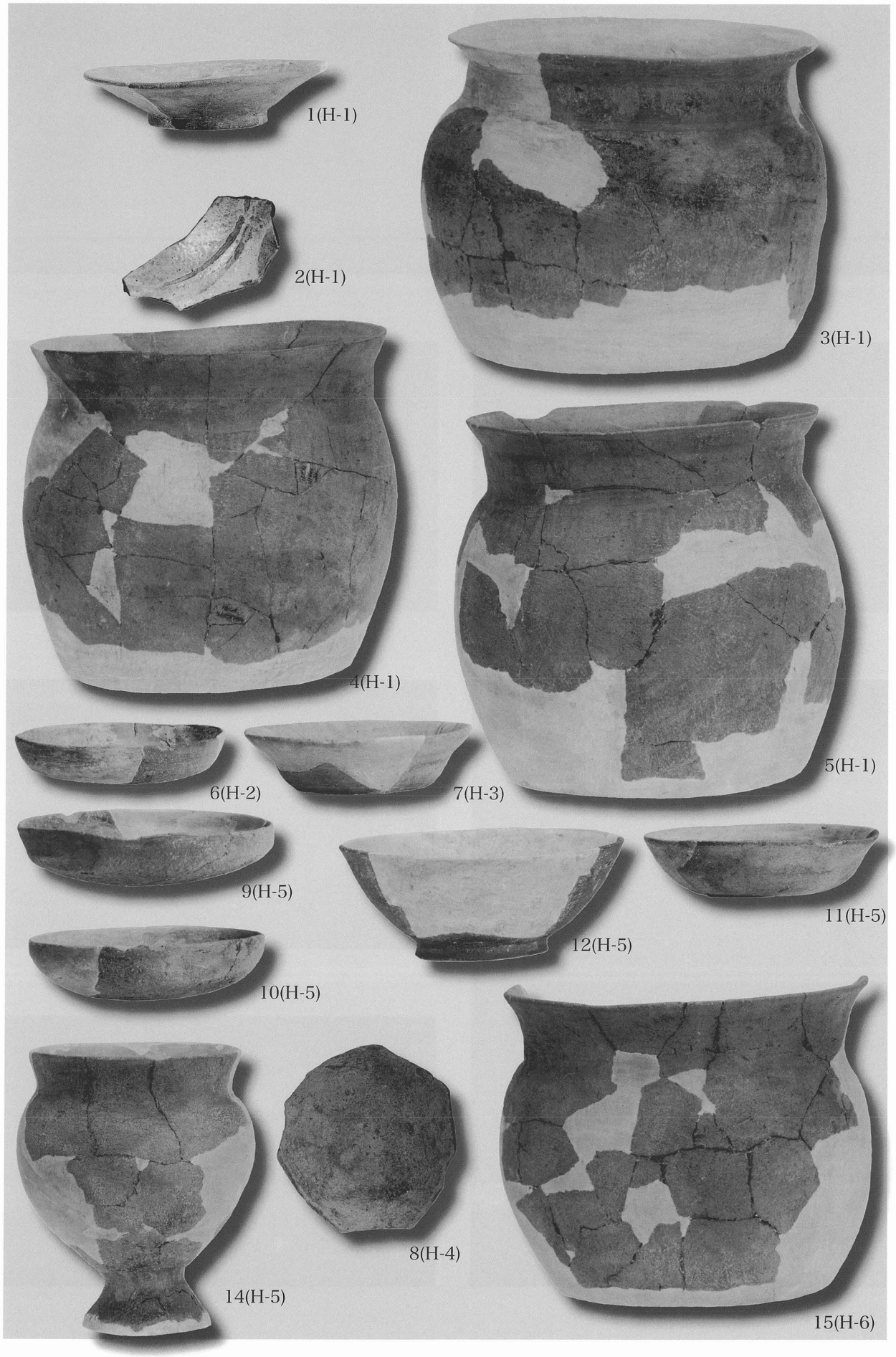
▲B-1 号 掘立柱建物（西から）

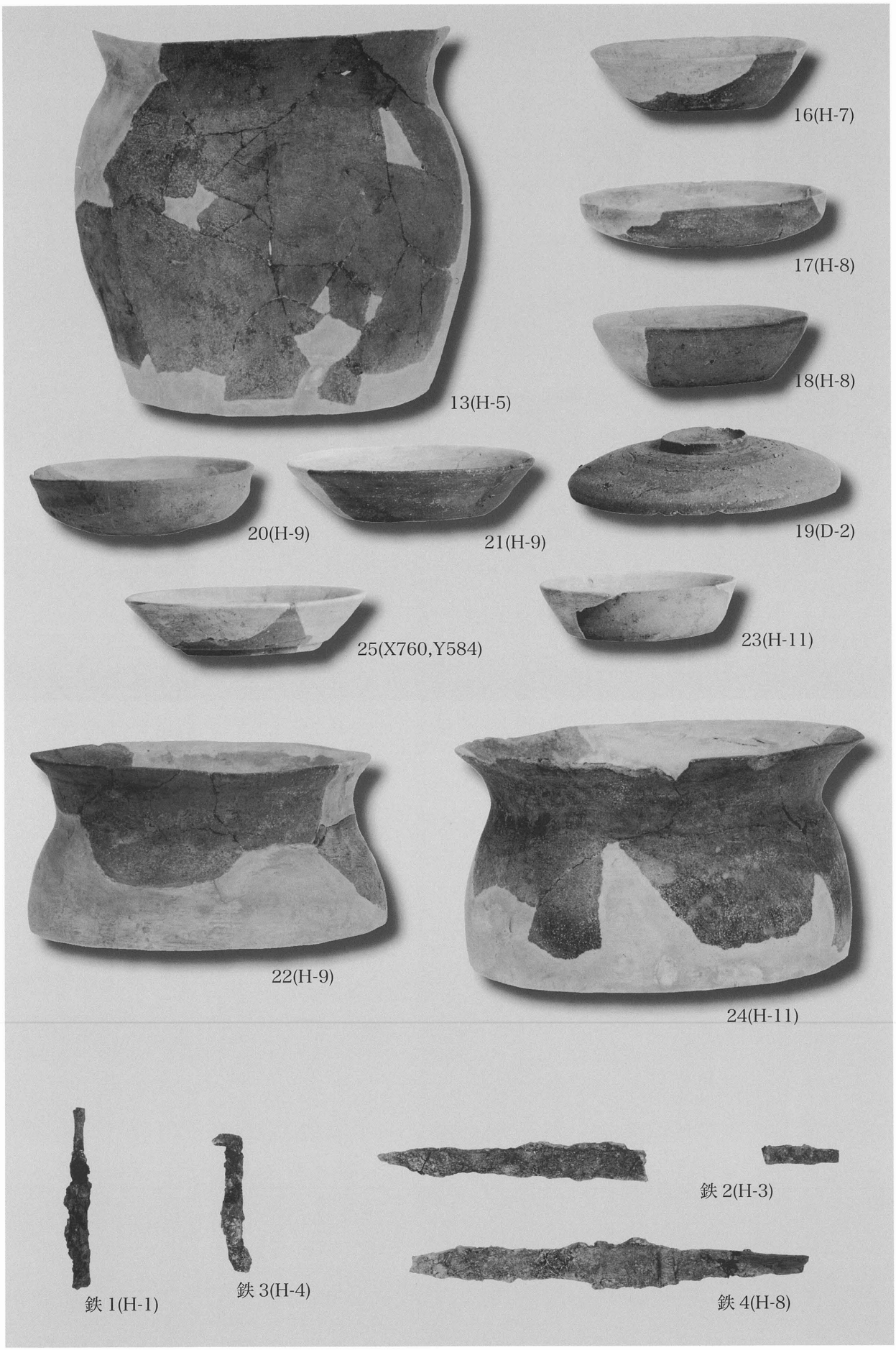
▲調査区全景（北から）

▲作業風景

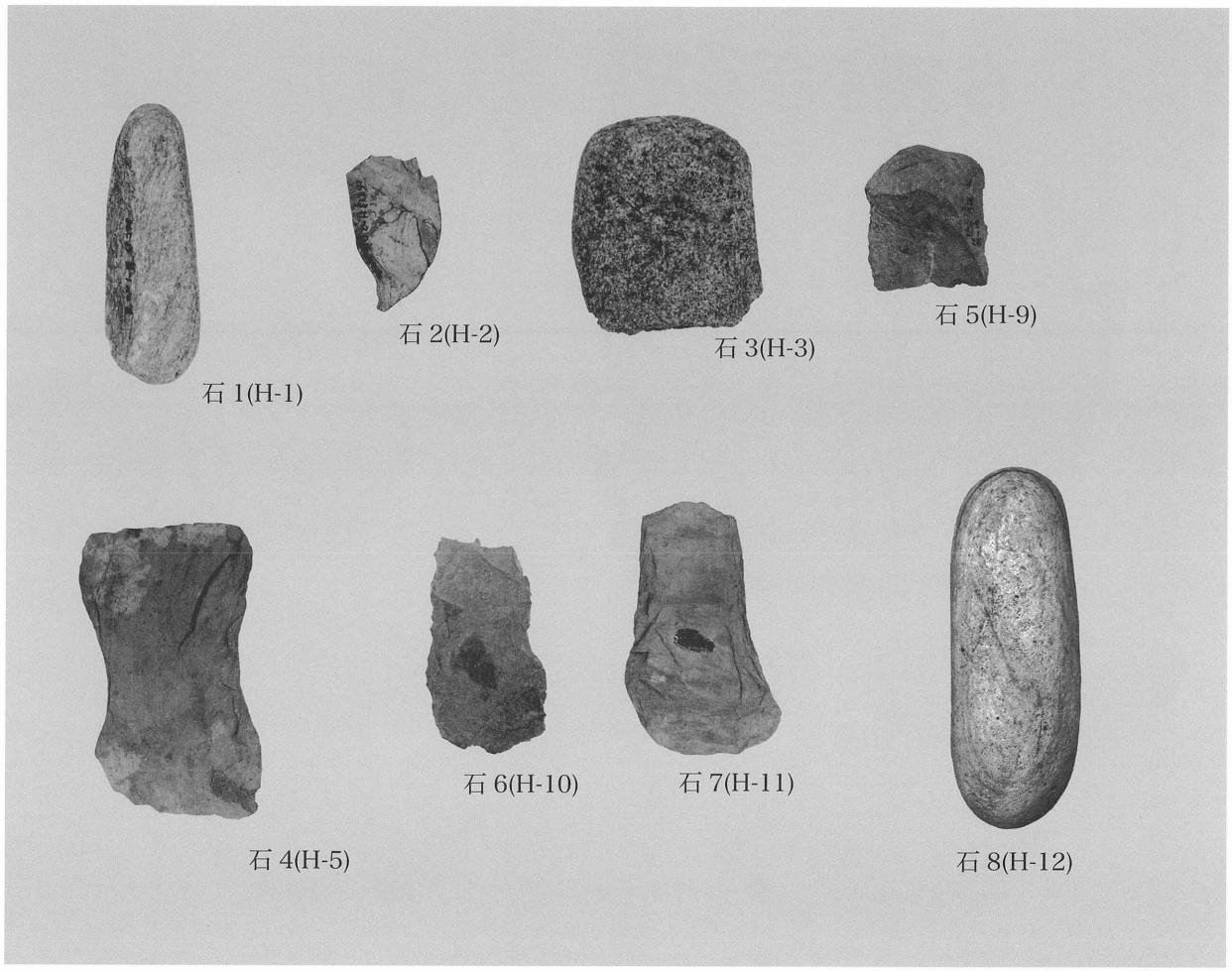
▲作業風景

PL.4




13(H-5)
16(H-7)
17(H-8)
18(H-8)
20(H-9)
21(H-9)
19(D-2)
25(X760,Y584)
23(H-11)
22(H-9)
24(H-11)
鉄 1(H-1)
鉄 3(H-4)
鉄 2(H-3)
鉄 4(H-8)

PL.6



報告書抄録

フリガナ	ハガトウブダンチイセキサン
書名	芳賀東部団地遺跡 III
副書名	芳賀東部住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	大﨑 和久・綿貫 綾子・遠藤 たか美
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三俣町二丁目 10-2
発行年月日	西暦 2005 年 3 月 22 日

所収遺物名（フリガナ）	所在地（フリガナ）	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
芳賀東部団地（ハガトウブダンチ）	前橋市鳥取町 770 番1ほか（マエバシシトットリマチ）	10201	16C13	36° 25'21"	139° 06'34"	20040830~20041008	418 ㎡	芳賀東部住宅団地拡張造成事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
芳賀東部団地	住居址	奈良・平安時代	竪穴住居址 12 軒・堀立柱建物址 1 棟	土師器、須恵器、鉄器、石製品	

芳賀東部団地遺跡III

芳賀東部住宅団地拡張造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2005 年 3 月 22 日　印　刷

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団

前橋市三俣町二丁目１０－２

TEL　０２７－２３１－９５３１

印　刷　上毎印刷工業株式会社